

(別表第1)

サービス評価結果表

サービス評価項目

(評価項目の構成)

I.その人らしい暮らしを支える

(1)ケアマネジメント

(2)日々の支援

(3)生活環境づくり

(4)健康を維持するための支援

II.家族との支え合い

III.地域との支え合い

IV.より良い支援を行うための運営体制

ホップ 職員みんなで自己評価!
 ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
 ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー
 “愛媛県地域密着型サービス評価”

【外部評価実施評価機関】※評価機関記入

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	愛媛県松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	平成30年10月22日

【アンケート協力数】※評価機関記入

家族アンケート	(回答数) 10名	(依頼数) 18名
地域アンケート回答数	10名	

※事業所記入

事業所番号	3890300126
事業所名	グループホームしおり
(ユニット名)	風
記入者(管理者)	
氏名	網干 直美
自己評価作成日	平成 30 年 9 月 20 日

<p>【事業所理念】 ・共に生きる</p>	<p>【前回の目標達成計画で取り組んだこと・その結果】 ①13-A利用者の方、家族の希望や要望をより深く知れるアセスメントツールを作成、活用し、プランに取り込み取り組んだ事で、職員の意識づけと支援の方向性が決まった。→結果：職員間で協力し、重度の利用者の方を含め必要な外出支援が必要なタイミングで少しずつ行えるようになった。 ②51-B毎月、発行する広報誌を自治会の回覧板に掲載して頂いたり、ボランティアの受け入れ、又、地域行事に積極的に参加し交流を図った。→結果：地域の方に周知して頂き、見学、相談者も増えてきている。</p>	<p>【今回、外部評価で確認した事業所の特徴】 事業所は高台に位置し宇和島市街地が見渡せ、宇和島城を同目線に見ることができる。リビングから真下を覗くと交流のある小学校があり、運動場やプールではしゃぐ子供たちの声を聞き利用者が笑みを浮かばせる光景が見られた。代表者や管理者は利用者の視点を大切に、自分でできることはしてもらえよう、職員と共有を図りながら支援に努めている。利用者は自由に外に出たり、畑で季節の野菜を収穫したり、料理の手伝いや家事の手伝いと役割や楽しみを持ち、生き生きと過ごすことができている。職員は日頃の利用者との関わりを大切にしながら、思いや意向を聴き、実行に移していくことで利用者の活気につなげている。</p>
---------------------------	--	---

評価結果表

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
I. その人らしい暮らしを支える									
(1) ケアマネジメント									
1	思いや暮らし方の希望、意向の把握	a	利用者一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。	○	日頃のコミュニケーションや会話等を通して思いや希望を聞くように努めている。又、得た情報は、記録に残し、職員間で共有している。	◎	/	◎	調査日も「ズボンを買いに行きたい」との要望に応え、利用者と一緒に買い物に出かけていた。日常会話の中で利用者の思いや意向を聞き、買い物・外食・外出支援などを行い満足して過ごしてもらえるよう支援している。
		b	把握が困難な場合や不確かな場合は、「本人はどうか」という視点で検討している。	○	本人の生活歴やこれまでの歴史にも目をむけ、本人本位で検討している。	/	/	/	
		c	職員だけでなく、本人をよく知る人(家族・親戚・友人等)とともに、「本人の思い」について話し合っている。	△	面会等に来られた際に、コミュニケーションを図り、本人の思いを伝える事はあっても話し合いまでには至っていない。	/	/	/	
		d	本人の暮らし方への思いを整理し、共有化するための記録をしている。	○	入所時、フェースシートを作成し、全職員で確認している。又、日々の思いや気づきは24hシート等に記録するように努めている。	/	/	/	
		e	職員の思い込みや決めつけにより、本人の思いを見落とさないように留意している。	△	留意して支援しているものの、確認が不足しており、もっと本人の思いを汲み取っていかないといけないと感じている。	/	/	/	
2	これまでの暮らしや現状の把握	a	利用者一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、こだわりや大切にしてきたこと、生活環境、これまでのサービス利用の経過等、本人や本人をよく知る人(家族・親戚・友人等)から聞いている。	○	入所時、家族や関係者から情報収集を行い、職員全員で情報共有を行っている。又、入所後は、面会時にホームでの様子を伝え、聞き取りを行っている。	/	/	○	入居時に利用者や家族、入居前の事業所関係者から情報を得ている。下肢筋力訓練を行っていた利用者が居室にペダルマシンを持ち込むなど馴染みの生活が継続できるよう支援している。
		b	利用者一人ひとりの心身の状態や有する力(わかること・できること・できそうなこと等)等の現状の把握に努めている。	○	ユニット会、モニタリング、アセスメントシート、日々の記録を通して状態を記録に残しながら情報を共有している。又、出来ないことと決めつけず取り組んでもらいどうだったか?で把握しようと努めている。	/	/	/	
		c	本人がどのような場所や場面で安心したり、不安になったり、不安定になったりするかを把握している。	○	ユニット会、モニタリング、アセスメントシート、24hシート等で確認し、状態を記録に残しながら、情報共有を行っている。	/	/	/	
		d	不安や不安定になっている要因が何かについて、把握に努めている。(身体面・精神面・生活環境・職員のかかわり等)	○	ユニット会、モニタリング、アセスメントシート、24hシート等で確認し、状態を記録に残しながら、情報共有を行っている。	/	/	/	
		e	利用者一人ひとりの一日の過ごし方や24時間の生活の流れ・リズム等、日々の変化や違いについて把握している。	○	細かい行動、時間帯を記録に残し、特記事項は申し送りを行っている。又、日々の変化や違いについても記録や申し送り等を通して把握している。	/	/	/	
3	チームで行うアセスメント(※チームとは、職員のみならず本人・家族・本人をよく知る関係者等を含む)	a	把握した情報をもとに、本人が何を求め必要としているのかを本人の視点で検討している。	○	ユニット会、モニタリングを行い、気づきを伝え、それについての意見を話し合っている。	/	/	○	把握した情報は職員全員で共有して話し合い、利用者視点で考えるよう努めている。利用者の「うちに来たら刺身を作ってあげる」という言葉を拾い上げ、職員間で「できるのではないかと話し合い、利用者が実際に刺身をつくることのできた例もある。
		b	本人がより良く暮らすために必要な支援とは何かを検討している。	○	ユニット会、モニタリング等を通して支援方法を検討している。	/	/	/	
		c	検討した内容に基づき、本人がより良く暮らすための課題を明らかにしている。	○	ユニット会、モニタリングを行い、日々の支援から出てくる課題について明らかにするよう努力している。	/	/	/	

愛媛県グループホームしおり

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
4	チームでつくる本人がより良く暮らすための介護計画	a	本人の思いや意向、暮らし方が反映された内容になっている。	○	本人にも確認したり、職員間で話し合い検討し反映されているか確認している。	/	/	/	利用者や家族の要望に基づき介護計画が作成されている。利用者が楽しく暮らせるよう、本や靴などの買い物や外食などを取り入れた支援も大切にしている。
		b	本人がより良く暮らすための課題や日々のケアのあり方について、本人、家族等、その他関係者等と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映して作成している。	○	本人、家族に希望を聞き、職員間で話しあっている。その人らしい支援のあり方を評価してカンファレンス等で話し合っている。	◎	/	○	
		c	重度の利用者に対しても、その人が慣れ親しんだ暮らし方や日々の過ごし方ができる内容となっている。	○	本人の希望に沿うよう話し合いをしている。その方に合った内容になっている。	/	/	/	
		d	本人の支え手として家族等や地域の人たちとの協力体制等が盛り込まれた内容になっている。	△	家族の面会や通院で外出をしているが、地域の協力体制というわけではない。	/	/	/	
5	介護計画に基づいた日々の支援	a	利用者一人ひとりの介護計画の内容を把握・理解し、職員間で共有している。	○	介護計画書は、いつも見やすい場所においており、ケアプランの内容について十分把握している。毎日確認をしチェックを行っている。	/	/	○	介護記録は24時間シートに記入し、介護計画と照らし合わせられる様式となっており、職員は理解しやすく毎日確認することができている。利用者の言葉や表情はそのまま記入されているが、職員のアイディアは豊富にあるものの気づきとして記録することが少ないようである。
		b	介護計画にそってケアが実践できたか、その結果どうだったかを記録して職員間で状況確認を行うとともに、日々の支援につなげている。	○	記録に実施状況や内容を記載している。ユニット会やモニタリングで支援について繰り返し確認している。	/	/	○	
		c	利用者一人ひとりの日々の暮らしの様子(言葉・表情・しぐさ・行動・身体状況・エピソード等)や支援した具体的内容を個別に記録している。	○	利用者一人ひとり、日々の様子等を細かく24hシートに記録している。	/	/	○	
		d	利用者一人ひとりについて、職員の気づきや工夫、アイデア等を個別に記録している。	△	日々の記録に残すよう努めている。	/	/	△	
6	現状に即した介護計画の見直し	a	介護計画の期間に応じて見直しを行っている。	◎	毎月、モニタリングを行いながら検討している。	/	/	○	毎月モニタリングを行い、定期的に見直しを行っている。朝夕の申し送りで利用者の状態を確認している。変化が生じた場合はその都度見直しを行い、現状に即した介護計画を作成している。
		b	新たな要望や変化がみられない場合も、月1回程度は現状確認を行っている。	◎	日々のケアにより確認を行い、ユニット会にて検討している。	/	/	○	
		c	本人の心身状態や暮らしの状態に変化が生じた場合は、随時本人、家族等、その他関係者等と見直しを行い、現状に即した新たな計画を作成している。	○	毎月、モニタリングを行い、状態の把握をしながら現状に即せるように努めている。	/	/	○	
7	チームケアのための会議	a	チームとしてケアを行う上での課題を解決するため、定期的、あるいは緊急案件がある場合にはその都度会議を開催している。	◎	緊急カンファレンスを行っている。	/	/	○	月1回のユニット会議で課題解決のための話し合いを行っている。緊急時のミーティングも職員全員が積極的に参加している。会議では外部研修の報告をすることで職員の意識向上につなげている。不参加の職員は議事録で確認の上サインし共有を図っている。
		b	会議は、お互いの情報や気づき、考え方や気持ちを率直に話し合い、活発な意見交換ができるよう雰囲気や場づくりを工夫している。	○	お茶を出し、和やかな雰囲気一人でひとりが言いやすいよう配慮しており意見交換ができている。	/	/	/	
		c	会議は、全ての職員を参加対象とし、可能な限り多くの職員が参加できるよう開催日時や場所等、工夫している。	◎	予め、日程を決め周知している。緊急の場合も多くの職員が参加できるよう勤務や休日の都合等を調整している。	/	/	/	
		d	参加できない職員がいた場合には、話し合われた内容を正確に伝えるしくみをつくっている。	◎	会議内容は記録の残し、閲覧したり、リーダーから口頭で伝達している。	/	/	○	
8	確実な申し送り、情報伝達	a	職員間で情報伝達すべき内容と方法について具体的に検討し、共有できるしくみをつくっている。	◎	日誌、連絡ノート、申し送りで共有している。	/	/	○	スタッフ連絡ノートと利用者ノートを使い分け、職員全員で共有している。管理者は文章では職員個々の受け止め方に違いが生じてくることを懸念し、口頭で伝えることも意識している。
		b	日々の申し送りや情報伝達を行い、重要な情報は全ての職員に伝わるようにしている。(利用者の様子・支援に関する情報・家族とのやり取り・業務連絡等)	○	日誌、申し送り等を通して、情報伝達と共有に努めており、確認印を押してもらっている。	◎	/	/	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
(2) 日々の支援									
9	利用者一人ひとりの思い、意向を大切にされた支援	a	利用者一人ひとりの「その日したいこと」を把握し、それを叶える努力を行っている。	△	コミュニケーションをとりながら、思いを把握するように努めているが、それを叶えられない日もある。毎日が同じパターンになってしまう時がある。	/	/	/	朝の着衣を決めたり、お茶タイムではメニュー表から自分の飲みたいものを選んでいく。日々の暮らしの中で利用者が自然と自己決定できるよう支援している。利用者は掃除・洗濯・調理など得意なことを手伝い、生き生きと生活している。
		b	利用者が日々の暮らしの様々な場面で自己決定する機会や場をつくっている。(選んでもらう機会や場をつくる、選ぶのを待っている等)	○	飲み物や洋服など希望の物を聞いたり、選択して頂く機会を作っている。入浴の時間など希望の時間やタイミングを本人と相談しながら、支援を行っている。	/	/	○	
		c	利用者が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた支援を行うなど、本人が自分で決めたり、納得しながら暮らせるよう支援している。	○	自己決定が難しい利用者に対して働きかけが難しい。コミュニケーションや会話から思いや希望を聞けるよう働きかけている。コミュニケーションを取りながら本人と可能な限り相談しながら支援を行っている。	/	/	/	
		d	職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースや習慣を大切にされた支援を行っている。(起床・就寝、食事・排泄・入浴等の時間やタイミング・長さ等)	△	一人ひとりのペースや習慣を大切に考え支援しているが、時には職員が先導気味になる事がある。しかし無理強いする事はない。	/	/	/	
		e	利用者の生き生きとした言動や表情(喜び・楽しみ・うるおい等)を引き出す言葉がけや雰囲気づくりをしている。	○	利用者に接する時は、明るく笑顔で気持ちの良い態度を心掛けている。コミュニケーションや声かけをする事を意識し、傾聴。その方にあった楽しみを見出せるよう提案している。	/	/	○	
		f	意思疎通が困難で、本人の思いや意向がつかめない場合でも、表情や全身での反応を注意深くキャッチしながら、本人の意向にそった暮らし方ができるよう支援している。	○	日頃の関わりの中から、表情や言動等をよく観察しながら状態を把握している。	/	/	/	
10	一人ひとりの誇りやプライバシーを尊重した関わり	a	職員は、「人権」や「尊厳」とは何かを学び、利用者の誇りやプライバシーを大切にされた言葉かけや態度等について、常に意識して行動している。	○	外部研修の参加、又、指導して下さる先輩もおり、日頃からプライバシーについて学んでいる。日頃から十分配慮し、声かけや態度等気をつけている。	◎	○	○	内部研修や外部研修に参加して人権や尊厳について学び、排泄や入浴、更衣などには細心の注意を払っている。居室に入る際のノックと声かけは欠かさないよう配慮している。認知症の理解について、職員全員に周知できていない部分があると管理者は感じており、今後の課題としている。
		b	職員は、利用者一人ひとりに対して敬意を払い、人前であからさまな介護や誘導の声かけをしないよう配慮しており、目立たずさりげない言葉がけや対応を行っている。	○	特に、大きくプライバシーに関わる部分、トイレや入浴、更衣については最新の注意を払っており、利用者に対してさりげない対応や言葉かけを意識している。	/	/	○	
		c	職員は、排泄時や入浴時には、不安や羞恥心、プライバシー等に配慮ながら介助を行っている。	○	不安に繋がる事柄は、事前に声かけをしている。又、カーテンを閉めたりタオルで隠すよう配慮している。	/	/	/	
		d	職員は、居室は利用者専用の場所であり、プライバシーの場所であることを理解し、居室への出入りなど十分配慮しながら行っている。	○	入室する時は、ノックをしたり、外から声をかけてから入室している。	/	/	○	
		e	職員は、利用者のプライバシーの保護や個人情報漏えい防止等について理解し、遵守している。	◎	個人情報、保護について理解している。職場内や職員間のやりとり等、個人情報に関する事を第三者に漏らさないようにしている。	/	/	/	
11	ともに過ごし、支え合う関係	a	職員は、利用者を介護される一方の立場におかず、利用者に助けってもらったり教えてもらったり、互いに感謝し合うなどの関係性を築いている。	○	日々の生活の中で、得意分野を積極的に任せてもらい、職員が教わることも多い。お互いに助け合い共感し支え合っている。	/	/	/	リビングが手狭なためテレビが見えにくかったり、シルバーカーが接触したりと問題になることもあるが、職員が仲介役となり雰囲気よくしている。重度利用者の車いすを他の利用者が押す姿もあり、支え合う関係が築かれている。
		b	職員は、利用者同士がともに助け合い、支え合って暮らしていくことの大切さを理解している。	○	利用者の笑顔や嬉しそうなお姿を見た時、支え合う事の大切さや重要性を感じ理解している。	/	/	/	
		c	職員は、利用者同士の関係を把握し、トラブルになったり孤立したりしないよう、利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。(仲の良い利用者同士が過ごせる配慮をする、孤立しがちな利用者が交わる機会を作る、世話役の利用者にうまく力を発揮してもらう場面をつくる等)。	○	利用者同士の関係を大切に支援をしている。全体の雰囲気をみながら、職員が間に入ったり、座席の配置を変更したりと工夫している。	/	/	○	
		d	利用者同士のトラブルに対して、必要な場合にはその解消に努め、当事者や他の利用者に不安や支障を生じさせないようにしている。	○	トラブルが起きそうな場合には、早めに職員が間に入って対応したり、それぞれの利用者によって別の場所で話を聞くなどして、他者への影響がないように支援している。	/	/	/	

愛媛県グループホームしおり

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
12	馴染みの人や場との関係継続の支援	a	これまで支えてくれたり、支えてきた人など、本人を取り巻く人間関係について把握している。	△	本人やご家族から聞くようにしているが、把握できていない部分もある。	/	/	/	
		b	利用者一人ひとりがこれまで培ってきた地域との関係や馴染みの場所などについて把握している。	△	これ迄の生活歴や家族から、情報収集し共有している。	/	/	/	
		c	知人や友人等に会いに行ったり、馴染みの場所に出かけていくなど本人がこれまで大切にしてきた人や場所との関係が途切れないよう支援している。	△	馴染みの美容院、理髪店、食事、通院等、これ迄の繋がりを継続している方もいるが、重度の方は外出が難しくなっている。	/	/	/	
		d	家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪れ、居心地よく過ごせるよう工夫している。	○	昼間は、鍵をかけず、気軽に来られる雰囲気になっている。面会時は、居室やホールでゆっくり過ごして頂けるようにし、本人の近況などを随時報告している。	/	/	/	
13	日常的な外出支援	a	利用者が、1日中ホームの中で過ごすことがないよう、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう取り組んでいる。(職員側の都合を優先したり、外出する利用者、時間帯、行き先などが固定化していない)(※重度の場合は、戸外に出て過ごすことも含む)	○	気候を考慮して、外出、散歩、外出に出たりしているが、一人ひとりの希望に添って取り組むのが難しい時もある。	◎	○	○	日常的に散歩やドライブに出かけられるようにしている。買い物や美容室など個別の外出支援にも取り組んでいる。先日も敷地内の菜園でさつま芋の収穫を利用者と共に行い喜ばれた。重度利用者も日当たりの良い窓際やデッキに連れ出し、外気に触れるよう支援に努めている。
		b	地域の人やボランティア、認知症サポーター等の協力も得ながら、外出支援をすすめている。	×	ホームの職員で外出支援している。	/	/	/	
		c	重度の利用者も戸外で気持ち良く過ごせるよう取り組んでいる。	○	戸外に出るのが難しい利用者さんは、体調を見ながらデッキで外気よくをしている。	/	/	○	
		d	本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら、普段は行けないような場所でも出かけられるように支援している。	△	家族に協力してもらい、自宅やお店に外出や外泊して頂ける事がある。	/	/	/	
14	心身機能の維持、向上を図る取り組み	a	職員は認知症や行動・心理症状について正しく理解しており、一人ひとりの利用者の状態の変化や症状を引き起こす要因をひもとき、取り除くケアを行っている。	○	利用者の状態の小さな変化も見逃さないよう、その日起きた事を職員間で話し合い解決するよう努めている。	/	/	/	掃除やおやつ作りを手伝ったりと自分にできることを行っている。服薬も薬袋を破くところからできる利用者にはしてもらっている。職員は指摘や否定することなく温かい眼差しで利用者を見守っている。
		b	認知症の人の身体面の機能低下の特徴(筋力低下・平衡感覚の悪化・排泄機能の低下・体温調整機能の低下・嚥下機能の低下等)を理解し、日常生活を営む中で自然に維持・向上が図れるよう取り組んでいる。	○	日常生活の中で見守りと声かけを行いながら、利用者の動きを抑制しないよう心がけており、毎日、体操を実施、できる限りトイレでの排泄、福祉用具の使用、又、内科、歯科往診を通して身体機能の維持に努めている。	/	/	/	
		c	利用者の「できること、できそうなこと」については、手や口を極力出さずに見守ったり一緒に行うようにしている。(場面づくり、環境づくり等)	○	見守りと声かけを行いながら、できるだけ本人にして頂けるよう心がけている。否定や指摘はせず、職員も一緒にいき、本人の思うように出来るだけして頂いている。	◎	/	○	
15	役割、楽しみごと、気晴らしの支援	a	利用者一人ひとりの生活歴、習慣、希望、有する力等を踏まえて、何が本人の楽しみごとや役割、出番になるのかを把握している。	○	本人とのコミュニケーション、家族との会話を通して、希望や楽しみを把握している。日々の生活から得意分野も把握し、利用者一人ひとりの生活を見守っている。	/	/	/	料理好きな利用者には味付けの確認をしてもらったり、洗濯物をたたんだり日々の暮らしの中で自然と役割ができています。利用者のなかでも意識があり、野菜づくりは利用者に教えてもらうことが多い。
		b	認知症や障害のレベルが進んでも、張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、日常的に、一人ひとりの楽しみごとや役割、出番をつくる取り組みを行っている。	○	一人ひとりの楽しめる事、出来る事、出来ない事を見極め、声かけをしやっています。	◎	◎	○	
		c	地域の中で役割や出番、楽しみ、張り合いが持てるよう支援している。	△	地域イベントには参加しているが、一部の限られた人であり、全員ではない。	/	/	/	

愛媛県グループホームしおり

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
16	身だしなみやおしゃれの支援	a	身だしなみを本人の個性、自己表現の一つととらえ、その人らしい身だしなみやおしゃれについて把握している。	○	好きな洋服選びやお化粧、スカーフをしたりと、その人なりのおしゃれを把握している。又、散髪や毛染めなどホームでできる事を本人と相談しながら行っている。				女性利用者はそれぞれに身だしなみを整えている。色鮮やかな服やおしゃれなメガネなど、その人らしさを保てるよう支援している。重度な利用者も含め、髪型は希望を聞き、その人に合ったスタイルにしている。
		b	利用者一人ひとりの個性、希望、生活歴等に応じて、髪形や服装、持ち物など本人の好みで整えられるように支援している。	○	個々に応じて洋服を選んでもらったり、ご自身で整容をされている方もおられる。又、月に1度来て頂いているボランティア散髪美容師さんには、好みの髪型や長さなどご自身で伝えるなどしている。又必要品の買い物は一緒にでかけたり職員が代行している。				
		c	自己決定がしにくい利用者には、職員と一緒に考えたりアドバイスする等本人の気持ちにそって支援している。	○	最初から決めつけず、問いかけの工夫に、二拓にしたりゆっくり考えて頂けるよう、せかさないうえを付けている。又、利用者本人や家族にも相談しながら支援している。				
		d	外出や年中行事等、生活の彩りにあわせてその人らしい服装を楽しめるよう支援している。	○	行事や外出等、その場面に際しておしゃれを楽しんで頂いている。				
		e	整容の乱れ、汚れ等に対し、プライドを大切にしたりさげなくカバーしている。(髭、着衣、履き物、食べこぼし、口の周囲等)	○	自尊心を傷つける事がないよう、さりげない声掛けをしている。	◎	◎	○	
		f	理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。	○	家族にも協力してもらいながら、馴染みの店に行っている。				
		g	重度な状態であっても、髪形や服装等本人らしさが保てる工夫や支援を行っている。	○	重度になっても場面や状況に合わせて髪型、服装の配慮をしている。			○	
17	食事を楽しむことのできる支援	a	職員は、食事の一連のプロセスの意味や大切さを理解している。	○	個々に応じて、調理方法や形態を変え美味しく食べられるよう支援している。				調理を手伝ったり、テーブルの用意など利用者はそれぞれできることを行っている。肉や魚は配達でもらっているが、週1回買い物に行く際は利用者も一緒に行っている。菜園では春夏秋冬に合った野菜が作られており、調査日も利用者が収穫したイモ入り天ぷらを昼食で味わうことができた。外食希望も多く、行事食と同様、好みの物を提供できるよう支援している。食器は一人ひとり馴染みの物を使用し、職員は利用者と同じテーブルを囲み、食事しながら介助の必要な利用者に見配り・気配りを行っている。重度な利用者もリビングに出て調理の音や匂いを感じている。栄養士を中心に職員全員で利用者の食事状態をアセスメントし、形態を変更するなど安全で美味しい食事作りに取り組んでいる。
		b	買い物や献立づくり、食材選び、調理、後片付け等、利用者とともにしている。	△	調理の下ごしらえ、片づけ等、出来る事は一緒に行っているが、時間に余裕がないとできない時もある。			○	
		c	利用者とともに買い物、調理、盛り付け、後片付けをする等を行うことで、利用者の力の発揮、自信、達成感につなげている。	△	手伝って頂く事で、自信、達成感に繋げているが、重度によりできない方もいる。				
		d	利用者一人ひとりの好きなものや苦手なもの、アレルギーの有無などについて把握している。	○	情報収集し、利用者個々の状況を把握している。				
		e	献立づくりの際には、利用者の好みや苦手なもの、アレルギー等を踏まえつつ、季節感を感じさせる旬の食材や、利用者にとって昔なつかしいもの等を取り入れている。	◎	アレルギーのある方は、メニュー変更をしている。又、地域の料理、旬の野菜や地元の魚を取り入れ、季節や行事によってメニューを工夫している。			◎	
		f	利用者一人ひとりの咀嚼・嚥下等の身体機能や便秘・下痢等の健康状態にあわせて調理方法としつつ、おいしそうに盛り付けの工夫をしている。(安易にミキサー食や刻み食で対応しない、いろどりや器の工夫等)	○	個々に応じて調理形態や食器を工夫している。又、体調面を考慮した食事を提供している。				
		g	茶碗や湯飲み、箸等は使い慣れたもの、使いやすいものを使用している。	○	利用者個々に応じて、使いやすい馴染みのある物を持って来て頂いている。			◎	
		h	職員も利用者と同じ食卓を囲んで食事を一緒に食べながら一人ひとりの様子を見守り、食事のペースや食べ方の混乱、食べこぼしなどに対するサポートをさりげなく行っている。	◎	職員はいつも同じ席にならないよう利用者と一緒に食事をして見守っている。迷う場面や進まない時は手前に置き換え声かけをしたり、食べこぼしには、そっと、ティッシュを差し出すなどさりげないサポートを心掛けている。			○	
		i	重度な状態であっても、調理の音やにおい、会話などを通して利用者が食事が待ち遠しくおいしく味わえるよう、雰囲気づくりや調理に配慮している。	○	調理中は、食材、献立、匂い、音、昔の話をしながら雰囲気作りをしている。	◎		○	
		j	利用者一人ひとりの状態や習慣に応じて食べられる量や栄養バランス、カロリー、水分摂取量が1日を通じて確保できるようにしている。	○	食事は毎食記録している。水分補給も時間を決めてこまめに行っており、希望時にも提供できるよう常備している。				
		k	食事が少なかったり、水分摂取量の少ない利用者には、食事の形態や飲み物の工夫、回数やタイミング等工夫し、低栄養や脱水にならないよう取り組んでいる。	○	食事は毎食記録している。水分補給も時間を決めてこまめに行っており、希望時にも提供できるよう常備している。嗜好品をとりいれたり、食事形態を見直したりしている。				
		l	職員で献立のバランス、調理方法などについて定期的話し合い、偏りがないように配慮している。場合によっては、栄養士のアドバイスを受けている。	○	栄養士の資格を持つ職員が献立を立てている。時には、献立を変更し食べやすいように配慮している。			○	
		m	食中毒などの予防のために調理用具や食材等の衛生管理を日常的に行い、安全で新鮮な食材の使用と管理に努めている。	◎	キッチンの掃除や整理整頓を行っている。食材の賞味期限や状態をきちんと管理している。				

愛媛県グループホームしおり

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
18	口腔内の清潔保持	a	職員は、口腔ケアが誤嚥性肺炎の防止につながることを知っており、口腔ケアの必要性、重要性を理解している。	◎	研修やミーティングで学び話し合っている。口腔ケアに使用する道具も利用者個々に合わせている。	/	/	/	利用者個々に応じ、自分でできる範囲で行ってもらい、磨き残しの確認は必ず職員が行うようにしている。2週間に1回訪問歯科の往診があり口腔異常のある利用者には、訪問歯科診療機材を持ち込み、本格的に治療してもらっている。医師や歯科助手から口腔ケアの指導をしてもらいながら、毎月計画を立て口腔内の清潔が保てるよう取り組んでいる。
		b	利用者一人ひとりの口の中の健康状況(虫歯の有無、義歯の状態、舌の状態等)について把握している。	○	訪問歯科の往診がある利用者に関しては、口腔内の状態についてよく把握している。その他でも口腔のことで、不具合がある等早期発見に努めている。	/	/	○	
		c	歯科医や歯科衛生士等から、口腔ケアの正しい方法について学び、日常の支援に活かしている。	○	訪問歯科の医師から指導していただいている。日常の支援に活かせる時と、支援につなげられないことがある。	/	/	/	
		d	義歯の手入れを適切に行えるよう支援している。	○	利用者個々に応じて、管理や洗浄等を支援している。介入できないケースもある。	/	/	/	
		e	利用者の力を引き出しながら、口の中の汚れや臭いが生じないように、口腔の清潔を日常的に支援している。(歯磨き・入れ歯の手入れ・うがい等の支援、出血や炎症のチェック等)	○	利用者個々に応じて、本人にできる範囲で行ってもらったり、訪問歯科を利用している。食事の様子や口腔ケア時等、異常や変化がないか見守っている。	/	/	○	
		f	虫歯、歯ぐきの腫れ、義歯の不具合等の状態をそのままにせず、歯科医に受診するなどの対応を行っている。	◎	異常等の早期発見に努め、家族にも相談しながら適切に受診につなげている。	/	/	/	
19	排泄の自立支援	a	職員は、排泄の自立が生きる意欲や自信の回復、身体機能を高めることにつながることや、おむつ(紙パンツ・パッドを含む)の使用が利用者の心身に与えるダメージについて理解している。	○	研修で学んだり、ミーティング時の意見交換で理解に努めている。オムツの使用に関しては必要最低限の使用を心がけている。	/	/	/	トイレでの排泄を基本とした支援に努めている。布パンツをはじめリハビリパンツ、尿取りパッド、ポータブルトイレを使用している利用者もいるが、一人ひとりの尿量を確認し、利用者にあったパッドを選ぶなど職員全員で検討しながら適切な支援に努めている。
		b	職員は、便秘の原因や及ぼす影響について理解している。	○	理解している。	/	/	/	
		c	本人の排泄の習慣やパターンを把握している。(間隔、量、排尿・排便の兆候等)	○	健康チェック表、24hシートの活用、申し送り等で個々の把握に努めているが、排泄動作の自立している方は難しい。	/	/	/	
		d	本人がトイレで用を足すことを基本として、おむつ(紙パンツ・パッドを含む)使用の必要性や適切性について常に見直し、一人ひとりのその時々状態にあった支援を行っている。	○	ユニット会等で話し合い、必要性を検討している。個々に応じた形状容量等で種類を選べている。できるだけ、トイレでの排泄ができるよう支援している。	◎	/	○	
		e	排泄を困難にしている要因や誘因を探り、少しでも改善できる点はないか検討しながら改善に向けた取り組みを行っている。	○	排泄状況を把握しながら、食事、水分、運動等に影響している点はないか考えながら支援している。	/	/	/	
		f	排泄の失敗を防ぐため、個々のパターンや兆候に合わせて早めの声かけや誘導を行っている。	○	一人ひとりの排泄パターンを把握し、兆候がみられたら声かけ、誘導を行っている。	/	/	/	
		g	おむつ(紙パンツ・パッドを含む)を使用する場合は、職員が一方的に選択するのではなく、どういう時間帯にどのようなものを使用するか等について本人や家族と話し合い、本人の好みや自分で使えるものを選択できるよう支援している。	○	使用する際は、オムツの種類、使用頻度、時間帯によって、ご本人に合うものを選択し本人、家族に説明、承諾を頂いている。	/	/	/	
		h	利用者一人ひとりの状態に合わせて下着やおむつ(紙パンツ・パッドを含む)を適時使い分けている。	○	本人の希望や使用目的に応じた使い分けができています。	/	/	/	
		i	飲食物の工夫や運動への働きかけなど、個々の状態に応じて便秘予防や自然排便を促す取り組みを行っている。(薬に頼らない取り組み)	△	食物繊維の多い食事や乳製品の提供、こまめな水分補給、運動の促し等を行っているが、薬に頼っている部分もある。	/	/	/	
20	入浴を楽しむことができる支援	a	曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、利用者一人ひとりの希望や習慣にそって入浴できるよう支援している。(時間帯、長さ、回数、温度等)。	△	毎日入浴ができるよう準備している。利用者個々に応じて生活の習慣やリズム、希望等を考慮して支援しているが、職員側の都合になってしまう事もある。	◎	/	○	利用者の要望に応え、入浴時間も日勤帯であれば自由である。毎日入る利用者もおり、1ユニットには特殊浴槽が完備され、利用者の状態に合わせた支援ができています。
		b	一人ひとりが、くつろいだ気分で入浴できるよう支援している。	○	一人ずつ入浴できている。支援の必要の有無や状況に応じ、介入しないよう支援している。	/	/	/	
		c	本人の力を活かしながら、安心して入浴できるよう支援している。	○	本人が出来るところはして頂いている。サポートが必要な所はさりげない声掛けをしながら支援している。	/	/	/	
		d	入浴を拒む人に対しては、その原因や理由を理解しており、無理強いせず気持ち良く入浴できるよう工夫している。	△	体調や本人の気持ちを尊重し、時間を変えて声かけしたり、日を変えて対応している。	/	/	/	
		e	入浴前には、その日の健康状態を確認し、入浴の可否を見極めるとともに、入浴後の状態も確認している。	○	入浴前にバイタルチェック、全身状態のチェックをしている。その時の体調や状態を見て入浴を決めている。入浴後は水分補給をしている。	/	/	/	

愛媛県グループホームしおり

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
21	安眠や休息の支援	a	利用者一人ひとりの睡眠パターンを把握している。	○	夜間帯の記録や申し送り、日々のケアから睡眠パターンを把握している。	/	/	/	利用者の希望を含め、現在医師と相談しながら服薬中の利用者が数名いる。服薬が危険の回避となった例もあり医師との相談は欠かせない。日中活動を増やしたりするなどを基本に、工夫しながら安眠につながるよう支援している。
		b	夜眠れない利用者についてはその原因を探り、その人本来のリズムを取り戻せるよう1日の生活リズムを整える工夫や取り組みを行っている。	○	昼夜逆転しないよう、日中の活動を維持できるよう努めている。	/	/	/	
		c	睡眠導入剤や安定剤等の薬剤に安易に頼るのではなく、利用者の数日間の活動や日中の過ごし方、出来事、支援内容などを十分に検討し、医師とも相談しながら総合的な支援を行っている。	△	日中の活動や過ごし方と並行して、医師との連携を取りながら、必要に応じて内服薬なども検討している。	/	/	/	
		d	休息や昼寝等、心身を休める場面が個別に取れるよう取り組んでいる。	◎	いつでも居室で休むことができる。その日の体調や前夜の睡眠具合を考慮し、臨機応変に対応している。	/	/	/	
22	電話や手紙の支援	a	家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	△	携帯電話を自由に使っている方もおられる。その他でも要望があれば電話や手紙の代筆等できるように備えている。	/	/	/	
		b	本人が手紙が書けない、電話はかけられないと決めつけず、促したり、必要な手助けをする等の支援を行っている。	○	年賀状、暑中見舞い等の作成に取り組んでいる。又、本人から要望があれば、電話や手紙の代筆をしている。	/	/	/	
		c	気兼ねなく電話できるよう配慮している。	○	携帯電話を持っている利用者もおられ、居室で自由に使用されている。持っていない方は、要望があれば取次を行っている。	/	/	/	
		d	届いた手紙や葉書をそのままにせず音信がとれるように工夫している。	○	郵便物などは本人に渡し、代読したり一緒に確認したりしている。返事を書く場合必要に応じて、代筆など支援している。	/	/	/	
		e	本人が電話をかけることについて家族等に理解、協力をしてもらおうとともに、家族等からも電話や手紙をくれるようお願いしている。	△	郵便物は、本人に渡し、居室に貼ったり、見える所に置いたりしている。返信の希望があれば、職員が準備し、代筆などサポートしている。	/	/	/	
23	お金の所持や使うことの支援	a	職員は本人がお金を所持すること、使うことの意味や大切さを理解している。	○	使用する機会は少ないが、お金をもっている事の安心感等利用者個々に応じて理解している	/	/	/	
		b	必要物品や好みの買い物に出かけ、お金の所持や使う機会を日常的につくっている。	×	要望があれば、出かける機会を作っているが、お金を使われることは少ない。移動販売のパン屋さんが来た時に利用されている方もおられる。	/	/	/	
		c	利用者が気兼ねなく安心して買い物ができるよう、日頃から買い物先の理解や協力を得る働きかけを行っている。	△	要望があれば一緒に出かけ買物をすることもある。	/	/	/	
		d	「希望がないから」「混乱するから」「失くすから」などと一方的に決めてしまうのではなく、家族と相談しながら一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	△	お金を持つことで安心感につながる利用者もおられるが、日常的にそのお金を使う場面が少ない。	/	/	/	
		e	お金の所持方法や使い方について、本人や家族と話し合っている。	△	入所時に話し合い決めている。	/	/	/	
		f	利用者が金銭の管理ができない場合には、その管理方法や家族への報告の方法などルールを明確にしており、本人・家族等の同意を得ている。(預り金規程、出納帳の確認等)。	◎	入所時に話し合い決めている。現金出納帳に記載し、毎月使用した分のコピーを送り、確認して頂いている。	/	/	/	
24	多様なニーズに応える取り組み		本人や家族の状況、その時々ニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	○	本人や家族等と相談しながらそのニーズに対応できるよう柔軟に対応できるよう備えている。	◎	/	◎	買い物、外食、墓参り、外泊など家族と相談しながら柔軟に対応できるよう支援している。調査日の買い物も利用者の急な要望であったが、職員は気持ちよく対応しすぐ行動に移していた。

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
(3)生活環境づくり									
25	気軽に入れる 玄関まわり等の配慮		利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、気軽に入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。	○	掃除や環境整備をし、ベンチやテーブル、椅子などを置き、明るい雰囲気作りを心がけている。	◎	◎	◎	門扉から玄関までの庭は芝生の手入れがされており、利用者と一緒に植え育てている季節の花が出迎えてくれる。玄関ホールは広く、写真付きで職員を紹介したボードやソファが置かれ、ゆっくりくつろげる雰囲気づくりがされている。
26	居心地の良い 共用空間づくり	a	共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、家庭的な雰囲気を有しており、調度や設備、物品や装飾も家庭的で、住まいとしての心地良さがある。(天井や壁に子供向けの飾りつけをしていたり、必要なものが置いていない殺風景な共用空間等、家庭的な雰囲気をそぐような設えになっていないか等。)	○	玄関やホールでは季節の花を飾ったり、季節や行事の装飾品を置いたりしている。くつろげるスペースを確保したり家庭的な環境を整えている。	◎	◎	◎	玄関やホール、リビングにはコスモスなど季節の花が花瓶で置かれ、廊下には職員と利用者で作った「山田の案山子」やハロウィーンの飾りつけがされている。玄関から廊下にかけて吹き抜けとなっており解放感がある。冬季には空気清浄機や加湿器などを置き、利用者の健康管理にも配慮している。窓からはコスモス畑や野菜畑を見ることができ、生活感や季節感を味わいながら過ごすことができている。
		b	利用者にとって不快な音や光、臭いがないように配慮し、掃除も行き届いている。	○	掃除、環境整備、空調、臭い等日々気を付けている。ポータブルトイレを設置している部屋には、消臭剤も使用している。				
		c	心地よさや能動的な言動を引き出すために、五感に働きかける様々な刺激(生活感や季節感を感じるもの)を生活空間の中に採り入れ、居心地よく過ごせるよう工夫している。	○	掲示物等で季節感を感じられるようにしている。地域のお祭りなど慣れ親しんだ音楽をかけたリクリエーションに取り入れている。				
		d	気の合う利用者同士で思い思いに過ごせたり、人の気配を感じながらも独りになれる居場所の工夫をしている。	○	リビング、廊下などにソファを設置し、気の合う利用者同士談笑できるようにしている。又、馴染みの場づくりや、独りで過ごせる環境も整っている。				
		e	トイレや浴室の内部が共用空間から直接見えないよう工夫している。	○	カーテン、扉で内部が直接見えないようにしている。				
27	居心地良く過ごせる 居室の配慮		本人や家族等と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	○	馴染みの家具等、使い慣れた物を持って来て頂いている。写真の掲示や家具等の配置を本人と家族とも相談しながら決めている。	◎		○	テレビやラジオ、携帯電話、椅子や洋風衣装ケースなど自宅で愛用していた物が持ち込まれている。多趣味な利用者の居室は使い勝手がいいようにレイアウトされ、利用者の好みに合わせた部屋づくりがされている。
28	一人ひとりの力が 活かせる環境づくり	a	建物内部は利用者一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように配慮や工夫をしている。	○	各居室には表札を設置している。又、トイレや浴室など掲示の工夫をし、わかりやすく見えるよう配慮している。			○	室内は手すりが設置がされトイレには「便所」、浴室には「ゆ」と書かれた暖簾を下げるなど、場所がわかるように工夫されている。廊下には不要な物を置かず、利用者が安全に自分のことができるよう支援している。
		b	不安や混乱、失敗を招くような環境や物品について検討し、利用者の認識間違いや判断ミスを最小にする工夫をしている。	○	利用者個々に応じて、不安や混乱、失敗等につながる場合の環境調整や支援をしている。				
		c	利用者の活動意欲を触発する馴染みの物品が、いつでも手に取れるように生活空間の中にさりげなく置かれている。(ほうき、裁縫道具、大工道具、園芸用品、趣味の品、新聞・雑誌、ポット、急須・湯飲み・お茶の道具等)	○	新聞や広報などが手にとれる所に置いてあり、危険があると思われるものは、希望時にお出ししている。雑誌、広告、花など生活空間の中にさりげなく配置している。				
29	鍵をかけない ケアの取り組み	a	代表者及び全ての職員が、居室や日中にユニット(棟)の出入り口、玄関に鍵をかけることの弊害を理解している。(鍵をかけられ出られない状態で暮らしていることの異常性、利用者にもたらす心理的不安や閉塞感・あきらめ・気力の喪失、家族や地域の人にもたらす印象のデメリット等)	◎	玄関チャイムを設置している。日中は鍵をしていない。自由に入出入りできる環境を整えている。	◎	◎	◎	職員は施錠することの弊害について理解している。面会等来客に配慮しチャイムは取り付けているが、玄関は施錠することなく扉も解放したままであり、利用者は自由に入出入りすることができる。
		b	鍵をかけない自由な暮らしについて家族の理解を図っている。安全を優先するために施錠を望む家族に対しては、自由の大切さと安全確保について話し合っている。	◎	家族と意見交換しながら、ホームでの生活について伝えている。				
		c	利用者の自由な暮らしを支え、利用者や家族等に心理的圧迫をもたらさないよう、日中は玄関に鍵をかけなくてもすむよう工夫している(外出の察知、外出傾向の把握、近所の理解・協力の促進等)。	○	玄関チャイムを設置している。利用者の自由な行動を妨げず、見守りや声かけをしながら支援している。				

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
(4) 健康を維持するための支援									
30	日々の健康状態や病状の把握	a	職員は、利用者一人ひとりの病歴や現病、留意事項等について把握している。	◎	情報収集した内容を確認している。申し送りや日誌の活用、看護記録や通院状況なども把握している。	/	/	/	
		b	職員は、利用者一人ひとりの身体状態の変化や異常のサインを早期に発見できるように注意しており、その変化やサインを記録に残している。	○	24時間シートに記録している。体調変化に気を付けその都度記録に残している。	/	/	/	
		c	気になることがあれば看護職やかかりつけ医等にいつでも気軽に相談できる関係を築き、重度化の防止や適切な入院につなげる等の努力をしている。	◎	主治医や事業所の看護士などへの相談をよくしながら、利用者個々に応じて支援している。	/	/	/	
31	かかりつけ医等の受診支援	a	利用者一人ひとりのこれまでの受療状況を把握し、本人・家族が希望する医療機関や医師に受診できるよう支援している。	○	本人や家族に相談しながら医療機関や医師に受診できる様支援している。	◎	/	/	
		b	本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	○	本人や家族の意向や希望をよく聞き、納得できる医療機関との連携を図っている。何かあればその都度家族に相談し、決定しながら支援している。	/	/	/	
		c	通院の仕方や受診結果の報告、結果に関する情報の伝達や共有のあり方等について、必要に応じて本人や家族等の合意を得られる話し合いを行っている。	○	通院の同行や付き添い、結果報告などその都度行っている。	/	/	/	
32	入退院時の医療機関との連携、協働	a	入院の際、特にストレスや負担を軽減できる内容を含む本人に関する情報提供を行っている。	○	入院の際は情報提供を行い、本人の状態等を伝えている。	/	/	/	
		b	安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。	○	管理者、看護職員が主に病院関係者と連絡を取り合いながら、随時家族とも連携して行っている。	/	/	/	
		c	利用者の入院時、または入院した場合に備えて日頃から病院関係者との関係づくりを行っている。	△	定期的な受診を通して、関係づくりをしている。	/	/	/	
33	看護職との連携、協働	a	介護職は、日常の関わりの中で得た情報や気づきを職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談している。看護職の配置や訪問看護ステーション等との契約がない場合は、かかりつけ医や協力医療機関等に相談している。	◎	日頃から事業所の看護職によく相談できている。かかりつけ医への相談も随時行っている。	/	/	/	
		b	看護職もしくは訪問看護師、協力医療機関等に、24時間いつでも気軽に相談できる体制がある。	○	事業所の看護職や、かかりつけ医には気軽に連絡・相談ができる。	/	/	/	
		c	利用者の日頃の健康管理や状態変化に応じた支援が適切にできるよう体制を整えている。また、それにより早期発見・治療につなげている。	○	毎日バイタルチェックを行い、変化や異常がないか観察している。何かあればすぐに相談できるように努めている。	/	/	/	
34	服薬支援	a	職員は、利用者が使用する薬の目的や副作用、用法や用量について理解している。	◎	処方箋や薬の説明、受診記録等から確認している。又、看護師は服薬状況管理表を作成しており、いつでも確認できるようにしている。	/	/	/	
		b	利用者一人ひとりが医師の指示どおりに服薬できるよう支援し、飲み忘れや誤薬を防ぐ取り組みを行っている。	○	服薬準備を利用者個々に応じて行っている。服薬する際は飲み込みの確認が必要な場合もあり、その都度支援している。	/	/	/	
		c	服薬は本人の心身の安定につながっているのか、また、副作用(周辺症状の誘発、表情や活動の抑制、食欲の低下、便秘や下痢等)がないかの確認を日常的に行っている。	○	日々の状態や様子を観察しながら変化や異常があれば、看護職やかかりつけ医に報告している。	/	/	/	
		d	漫然と服薬支援を行うのではなく、本人の状態の経過や変化などを記録し、家族や医師、看護職等に情報提供している。	○	本人の状態や変化等、服薬に際しての状態などを家族、医師、看護職に報告しながら連携をとっている。	/	/	/	

愛媛県グループホームしおり

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
35	重度化や終末期への支援	a	重度化した場合や終末期のあり方について、入居時、または状態変化の段階ごとに本人・家族等と話し合いを行い、その意向を確認しながら方針を共有している。	○	随時家族と相談しながら、その都度生まれてくる疑問や不安などに対して、話し合いを通して確認している。終末期や延命治療など方針を聞きながら職員間で教諭している。	/	/	/	「看取り指針」を定め看取りを実施している。家族の揺れ動く気持ちに寄り添いながら何度も何度も話し合いをもち、医師との連携を図りながら関係者全員で方針を共有するよう努めている。看護師の配置も多く、医療面において介護職員の心強さとなっている。
		b	重度化、終末期のあり方について、本人・家族等だけでなく、職員、かかりつけ医・協力医療機関等関係者で話し合い、方針を共有している。	○	カンファレンスやかかりつけ医の往診時等、家族や本人と共に今後について話し合い方針を決めている。	○	/	○	
		c	管理者は、終末期の対応について、その時々職員の思いや力量を把握し、現状ではどこまでの支援ができるかの見極めを行っている。	○	カンファレンスを実施し、職員にできることの確認や、連絡手段、対応方法について共有している。	/	/	/	
		d	本人や家族等に事業所の「できること・できないこと」や対応方針について十分な説明を行い、理解を得ている。	○	その都度話し合いを行いながら、理解して頂いている。	/	/	/	
		e	重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、家族やかかりつけ医など医療関係者と連携を図りながらチームで支援していく体制を整えている。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。	○	重度や終末期の段階において、変化や何かあった場合は家族やかかりつけ医とこまめに連絡を取っている。その際、今後の考えられる経過やどう対応したらよいか等相談している。	/	/	/	
		f	家族等への心理的支援を行っている。(心情の理解、家族間の事情の考慮、精神面での支え等)	○	家族等の面会の際には、声かけやコミュニケーションを通して気持ちを聞けるよう心がけている。	/	/	/	
36	感染症予防と対応	a	職員は、感染症(ノロウイルス、インフルエンザ、白癬、疥癬、肝炎、MRSA等)や具体的な予防策、早期発見、早期対応策等について定期的に学んでいる。	○	研修会などに参加しながら学んでいる。	/	/	/	
		b	感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、万が一、感染症が発生した場合に速やかに手順にそった対応ができるよう日頃から訓練を行うなどして体制を整えている。	△	感染対策のマニュアルがあるが、日ごろからの訓練が不足している。	/	/	/	
		c	保健所や行政、医療機関、関連雑誌、インターネット等を通じて感染症に対する予防や対策、地域の感染症発生状況等の最新情報を入手し、取り入れている。	○	テレビ、新聞、保健所、医療機関からの情報を取り入れている。	/	/	/	
		d	地域の感染症発生状況の情報収集に努め、感染症の流行に随時対応している。	○	テレビ、新聞、保健所、医療機関から情報を取り入れ、流向時等には注意喚起をしながら予防に努めている。	/	/	/	
		e	職員は手洗いやうがいなど徹底して行っており、利用者や来訪者等についても清潔が保持できるよう支援している。	○	日頃から手洗いうがいの意識づけができています。	/	/	/	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
II. 家族との支え合い									
37	本人とともに支え合う 家族との関係づくりと支援	a	職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽をともにし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	△	面会時や電話など、本人の様子や状態を報告して話をしている。家族とのコミュニケーションを大切にしている。				家族の面会は多く、時には面会中に利用者と一緒にレクリエーションに参加する家族もいる。行事や外出などは、家族の参加協力を得ている。毎月便りを送付する際に手紙を添え、利用者の活動状況や日頃の様子、職員の異動や退職を含め、運営上の事柄も伝えるようにしている。面会時や運営推進会議などで、家族から意見や要望が言いやすいよう雰囲気づくりに努めている。
		b	家族が気軽に訪れ、居心地よく過ごせるような雰囲気づくりや対応を行っている。(来やすい雰囲気、関係再構築の支援、湯茶の自由利用、居室への宿泊のしやすさ等)	○	面会時は居室やホールでゆっくり過ごしていただけるよう声かけしている。お茶やおやつ等をお出しし、利用者本人と共にくつろいでいただけるように対応している。				
		c	家族がホームでの活動に参加できるように、場面や機会を作っている。(食事づくり、散歩、外出、行事等)	○	日頃の外出や通院、行事等を協力いただき機会を作っている	◎		○	
		d	来訪する機会が少ない家族や疎遠になってしまっている家族も含め、家族の来訪時や定期的な報告などにより、利用者の暮らしぶりや日常の様子を具体的に伝えている。(「たより」の発行・送付、メール、行事等の録画、写真の送付等)	○	毎月家族に向けてお手紙を送付し、本人の様子をお伝えしたり、しおり便りを同封し、ホームでの活動状況などをお伝えしている。	◎		○	
		e	事業所側の一方的な情報提供ではなく、家族が知りたいことや不安に感じていること等の具体的内容を把握して報告を行っている。	△	会話やコミュニケーションを通して、家族の面会時等に話をしている。				
		f	これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係を築いていけるように支援している。(認知症への理解、本人への理解、適切な接し方・対応等についての説明や働きかけ、関係の再構築への支援等)	○	利用者本人の状況や様子を随時伝えつつ、家族が不安や心配すぎないよう、フォローしている。				
		g	事業所の運営上の事柄や出来事について都度報告し、理解や協力を得るようにしている。(行事、設備改修、機器の導入、職員の異動・退職等)	○	運営推進会議やしおり便り等で報告している。職員の異動退職については不十分である。	◎		○	
		h	家族同士の交流が図られるように、様々な機会を提供している。(家族会、行事、旅行等への働きかけ)	○	運営推進会議、行事等への参加のお誘いをしている。				
		i	利用者一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている。	○	体調変化や、それが予測される状態の時などは随時連絡を取っている。できるだけ事前に相談しながら伝えている。				
		j	家族が、気がかりなことや、意見、希望を職員に気軽に伝えたり相談したりできるように、来訪時の声かけや定期的な連絡等を積極的に行っている。	○	面会や来訪時に、声かけを行いコミュニケーションをとるように心がけている。			○	
38	契約に関する説明と納得	a	契約の締結、解約、内容の変更等の際は、具体的な説明を行い、理解、納得を得ている。	◎	入居契約の際、理解、納得して頂きながら進めている。				
		b	退居については、契約に基づくとともにその決定過程を明確にし、利用者や家族等に具体的な説明を行った上で、納得のいく退居先に移れるように支援している。退居事例がない場合は、その体制がある。	○	退去に際しては、利用者家族と話し合い、ケースごとに対応できるようにしている。				
		c	契約時及び料金改定時には、料金の内訳を文書で示し、料金の設定理由を具体的に説明し、同意を得ている。(食費、光熱水費、その他の実費、敷金設定の場合の償却、返済方法等)	◎	料金の変更がある場合は、予め家族への手紙や電話連絡、運営推進会議等で報告、説明し、同意を得ている。				

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
Ⅲ.地域との支え合い									
39	地域とのつきあいやネットワークづくり ※文言の説明 地域:事業所が所在する市町の日常生活圏域、自治会エリア	a	地域の人に対して、事業所の設立段階から機会をつくり、事業所の目的や役割などを説明し、理解を図っている。	○	近隣地域の人に対して、しおり便りを配布したり、行事の際のお誘いに出向いたりしている。	/	◎	/	地域のボランティア清掃や夏祭りなど積極的に参加している。保育園や小学校との交流も盛んで、行事毎の行き来ができています。小学校でテレビでも有名な俳句の講師を招いての「俳句ライブin天神」が開催され、利用者と一緒に参加したりしている。
		b	事業所は、孤立することなく、利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、地域の人たちに対して日頃から関係を深める働きかけを行っている。(日常的なあいさつ、町内会・自治会への参加、地域の活動や行事への参加等)	○	地域行事がある時は、積極的に参加している。その中であいさつやコミュニケーションは大切にしている。	/	◎	○	
		c	利用者を見守ったり、支援してくれる地域の人たちが増えている。	△	民生委員の方や近所の商店の方などと少しずつ顔みしりとなり声をかけて下さる。	/	/	/	
		d	地域の人気軽に立ち寄り遊びに来たりしている。	○	いつもではないが、子供や地域の方が立ち寄ることがある。	/	/	/	
		e	隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらうなど、日常的なおつきあいをしている。	△	散歩時に声をかけて下さったり、しおり便りを配布している。	/	/	/	
		f	近隣の住民やボランティア等が、利用者の生活の拡がりや充実を図ることを支援してくれるよう働きかけを行っている。(日常的な活動の支援、遠出、行事等の支援)	○	散髪、カラオケ、サロン等地域の協力をいただき、ホーム内での行事等に参加していただいている。	/	/	/	
		g	利用者一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	○	地域行事に可能な限り出かけていき交流している。	/	/	/	
		h	地域の人たちや周辺地域の諸施設からも協力を得ることができるよう、日頃から理解を拡げる働きかけや関係を深める取り組みを行っている(公民館、商店・スーパー・コンビニ、飲食店、理美容店、福祉施設、交番、消防、文化・教育施設等)。	○	地域の小学校や保育園、商店などの協力もありホームに訪問して頂いている。しおり便りの配布や、地域行事に出向いたり日常の中で行っている。	/	/	/	
40	運営推進会議を活かした取り組み	a	運営推進会議には、毎回利用者や家族、地域の人等の参加がある。	○	家族や地域の人等の参加はあるが、利用者が参加する機会はない。	◎	/	△	運営推進会議には地域住民や家族の参加はあるが、利用者の参加には至っていないので、参加できるよう工夫して欲しい。会議では事業所の活動や利用者の状況、外部評価の取組みが報告され、サービスの要望や助言をもらうことができています。会議の参加者からの意見や提案等が少ないので、今後は参加者から意見等がもらえるよう進行等の工夫に期待したい。
		b	運営推進会議では、利用者やサービスの実績、評価への取り組み状況(自己評価・外部評価の内容、目標達成計画の内容と取り組み状況等)について報告している。	◎	外部評価の結果がまとまり次第、運営推進鍵で報告している	/	/	○	
		c	運営推進会議では、事業所からの一方的な報告に終わらず、会議で出された意見や提案等を日々の取り組みやサービス向上に活かし、その状況や結果等について報告している。	△	事業所からの一方的な報告だけでなく、参加者に意見をいただけるよう働きかけているが提案などは少ない。	/	◎	△	
		d	テーマに合わせて参加メンバーを増やしたり、メンバーが出席しやすい日程や時間帯について配慮・工夫をしている。	○	年間の予定をたてており、事前に日程をお知らせしている。	/	/	○	
		e	運営推進会議の議事録を公表している。	×	要望があればお答えできるように備えている。	/	/	/	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
IV.より良い支援を行うための運営体制									
41	理念の共有と実践	a	地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、代表者、管理者、職員は、その理念について共通認識を持ち、日々の実践が理念に基づいたものになるよう日常的に取り組んでいる。	○	ホーム玄関に事業所全体の理念を掲示し確認している。又、各ユニットで目標を決め年に一度振り返り、見直しを行っている。	/	/	/	
		b	利用者、家族、地域の人たちにも、理念をわかりやすく伝えている。	○	理念は玄関に掲示しており、しおり便りにも掲載している。見学者には、その際に伝えている。	○	○	/	
42	職員を育てる取り組み ※文言の説明 代表者：基本的には運営している法人の代表者であり、理事長や代表取締役が該当するが、法人の規模によって、理事長や代表取締役をその法人の地域密着型サービス部門の代表者として扱うのは合理的ではないと判断される場合、当該部門の責任者などを代表者として差し支えない。したがって、指定申請書に記載する代表者と異なることはありうる。	a	代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、計画的に法人内外の研修を受けられるよう取り組んでいる。	○	研修に参加できるよう周知や声かけを行っている。代表者は現場を見たり、面接を行い、職員とのコミュニケーションを図りながら把握している。	/	/	/	日頃から業務の中で代表者は職員と関わりを持ち、コミュニケーションが図れるよう努めている。代表者は女性で話しやすいとのことで、職員の誕生日にリフレッシュ休暇として連休を設けたり、夏冬と職員の交流となる食事の場をつくるなど働きやすい環境づくりに取り組んでいる。
		b	管理者は、OJT(職場での実務を通して行う教育・訓練・学習)を計画的に行い、職員が働きながらスキルアップできるよう取り組んでいる。	△	ミーティングの際、話し合いの中で取り組んでいる。	/	/	/	
		c	代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	○	職員個々に向けて取り組んでいる。シフトや業務内容に負担がないか管理者と話し合いが行われている。	/	/	/	
		d	代表者は管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互研修などの活動を通して職員の意識を向上させていく取り組みをしている。(事業者団体や都道府県単位、市町単位の連絡会などへの加入・参加)	◎	研修や交流会などへの参加を心がけている。研修参加について、管理者から職員に案内したり直接声をかけている。	/	/	/	
		e	代表者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。	○	面接や日頃の業務の中でコミュニケーションをとりながら話を聞いてくれる。	◎	○	○	
43	虐待防止の徹底	a	代表者及び全ての職員は、高齢者虐待防止法について学び、虐待や不適切なケアに当たるのは具体的にどのような行為なのかを理解している。	○	研修で学んだり、職員間で話し合い取り組んでいる。利用者の生活の中で、ケアを振り返り適切なケアを検討している。	/	/	/	不適切な言動には細心の注意を払っている。気になる場合には職員間で常に話し合うなど意識している。職員は内部・外部研修で意識向上につなげながら、不適切な行為の対応方法などの共有を図っている。
		b	管理者は、職員とともに日々のケアについて振り返ったり話し合ったりする機会や場をつくっている。	○	ミーティングや日頃から話し合う場で気づきを出し合い検討している。	/	/	/	
		c	代表者及び全ての職員は、虐待や不適切なケアが見逃されることがないように注意を払い、これらの行為を発見した場合の対応方法や手順について知っている。	○	言葉や関わり態度が不適切であったり虐待に繋がっていないか意識している。怪我や状態に変化がある時は、職員間で報告し合っている。	/	/	○	
		d	代表者、管理者は職員の疲労やストレスが利用者へのケアに影響していないか日常的に注意を払い、点検している。	○	職員の日々の様子に気を付け、本人に声をかけたり話を聞いたりしている。	/	/	/	
44	身体拘束をしないケアの取り組み	a	代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」や「緊急やむを得ない場合」とは何かについて正しく理解している。	○	研修やミーティングを通して、職員間で話し合いながら事例に合わせて検討している。	/	/	/	
		b	どのようなことが身体拘束に当たるのか、利用者や現場の状況に照らし合わせて点検し、話し合う機会をつくっている。	◎	身体拘束等の適正化対策委員会を立ち上げ、委員会を中心に定期的に話し合いをしている。	/	/	/	
		c	家族等から拘束や施設等の要望があっても、その弊害について説明し、事業所が身体拘束を行わないケアの取り組みや工夫の具体的内容を示し、話し合いを重ねながら理解を図っている。	○	身体拘束について、家族等と話し合いながら理解をして頂いている。	/	/	/	

愛媛県グループホームしおり

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
45	権利擁護に関する制度の活用	a	管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学び、それぞれの制度の違いや利点などを含め理解している。	○	研修に参加し、理解できるよう努めている。	/	/	/	
		b	利用者や家族の現状を踏まえて、それぞれの制度の違いや利点なども含め、パンフレット等で情報提供したり、相談にのる等の支援を行っている。	×	現在そのようなケースがない。	/	/	/	
		c	支援が必要な利用者が制度を利用できるよう、地域包括支援センターや専門機関(社会福祉協議会、後見センター、司法書士等)との連携体制を築いている。	○	支援が必要である場合は、専門機関等の関係各所に繋げるよう備えている。	/	/	/	
46	急変や事故発生時の備え・事故防止の取り組み	a	怪我、骨折、発作、のど詰まり、意識不明等利用者の急変や事故発生時に備えて対応マニュアルを作成し、周知している。	△	マニュアルはあるが、周知徹底が不十分である。連絡体制は整備しており、施設長、管理者、看護職からの指示を受けるようにしている。	/	/	/	
		b	全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	○	看護職からの指導等が主である。実践に向けては不安があるのが現状である。	/	/	/	
		c	事故が発生した場合の事故報告書はもとより、事故の一手手前の事例についてもヒヤリハットにまとめ、職員間で検討するなど再発防止に努めている。	○	ヒヤリハットを活用し、再発防止に努め検討している。	/	/	/	
		d	利用者一人ひとりの状態から考えられるリスクや危険について検討し、事故防止に取り組んでいる。	○	利用者個々に応じて、リスクや環境調整等を考慮し取り組んでいる。	/	/	/	
47	苦情への迅速な対応と改善の取り組み	a	苦情対応のマニュアルを作成し、職員はそれを理解し、適宜対応方法について検討している。	△	マニュアルがあるが周知徹底が不十分である。	/	/	/	
		b	利用者や家族、地域等から苦情が寄せられた場合には、速やかに手順に沿って対応している。また、必要と思われる場合には、市町にも相談・報告等している。	○	苦情や不満につながるようなケースもあるので、何かあれば利用者家族へ随時報告、相談を行っている。	/	/	/	
		c	苦情に対しての対策案を検討して速やかに回答するとともに、サービス改善の経過や結果を伝え、納得を得ながら前向きな話し合いと関係づくりを行っている。	○	苦情とまでは至らなくても、随時連絡、相談を取りながら取り組んでいる。	/	/	/	
48	運営に関する意見の反映	a	利用者が意見や要望、苦情を伝えられる機会をつくっている。(法人・事業所の相談窓口、運営推進会議、個別に訊く機会等)	○	2ヶ月に1度、介護相談員が来所、利用者の意見や要望、苦情を聞く機会がある。又、常日頃、管理者、職員は、利用者の意見や要望を聞くよう努めている。	/	/	○	利用者には日常会話の中で聞いたり、介護相談員の訪問時に要望などを聴いてもらうことができている。家族には面会時や運営推進会議などで、また家族会が発足したことから言いやすい機会がある。管理者は職員とミーティングやカンファレンスで意見を交わし、速やかに話し合い実行に移している。
		b	家族等が意見や要望、苦情を伝えられる機会をつくっている。(法人・事業所の相談窓口、運営推進会議、家族会、個別に訊く機会等)	○	運営推進会議や、家族会、面会時の際、コミュニケーションを通して話し合っている。	◎	/	○	
		c	契約当初だけではなく、利用者・家族等が苦情や相談ができる公的な窓口の情報提供を適宜行っている。	○	介護相談員が定期的に来所されている。苦情相談員についてホーム内に掲示している。	/	/	/	
		d	代表者は、自ら現場に足を運ぶなどして職員の意見や要望・提案等を直接聞く機会をつくっている。	○	代表者は、巡回など随時おこなっており、食事を共にしたり、いつでも意見や要望、相談ができる機会を作っている。又、必要に応じて個別に対応したりミーティング等全体で話し合っている。	/	/	/	
		e	管理者は、職員一人ひとりの意見や提案等を聴く機会を持ち、ともに利用者本位の支援をしていくための運営について検討している。	○	朝、夕の申し送りに参加し、常に現場の状況の把握に努めている。職員一人ひとりの意見や提案等が聞けるよう、それぞれに声かけをおこなっており、ミーティング、ユニット会で意見交換を行っている。	/	/	○	

愛媛県グループホームしおり

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
49	サービス評価の取り組み	a	代表者、管理者、職員は、サービス評価の意義や目的を理解し、年1回以上全員で自己評価に取り組んでいる。	○	外部評価時には説明を行い、職員全員で一人ひとり自己評価に取り組んでいる。	/	/	/	運営推進会議で参加者に評価結果や目標達成計画を報告しているが、今後は途中経過や結果を詳細に報告することで取組み状況を理解してもらい、モニターとして関わってもらえるようになることに期待したい。
		b	評価を通して事業所の現状や課題を明らかにするとともに、意識統一や学習の機会として活かしている。	○	評価の内容や結果、課題等は職員で確認、共有している。	/	/	/	
		c	評価(自己・外部・家族・地域)の結果を踏まえて実現可能な目標達成計画を作成し、その達成に向けて事業所全体で取り組んでいる。	○	目標達成計画を作成し、職員全員に周知し職員間で話し合い確認している。	/	/	/	
		d	評価結果と目標達成計画を市町、地域包括支援センター、運営推進会議メンバー、家族等に報告し、今後の取り組みのモニターをしてもらっている。	○	家族、運営推進会議の参加者に書式を用いて報告し、計画書を確認してもらっている。	○	○	△	
		e	事業所内や運営推進会議等にて、目標達成計画に掲げた取り組みの成果を確認している。	△	計画書の成果の振り返りや確認が不十分である。	/	/	/	
50	災害への備え	a	様々な災害の発生を想定した具体的な対応マニュアルを作成し、周知している。(火災、地震、津波、風水害、原子力災害等)	○	マニュアルはあるが、周知徹底が不十分である。	/	/	/	年1回消防署立ち合いのもと避難訓練を行っているが、近隣住民の参加協力を得ることができていない。地元消防団の参加も現在はない。7月の西日本豪雨では実際に怖い思いもしたことから、災害に備え近隣住民や消防団に継続して声かけを行って欲しい。また運営推進会議の参加者にも協力を得て、災害訓練にも取り組むことに期待したい。
		b	作成したマニュアルに基づき、利用者が、安全かつ確実に避難できるよう、さまざまな時間帯を想定した訓練を計画して行っている。	◎	年3回日中、夜間想定や様々な状況を想定しての避難訓練を行っている。	/	/	/	
		d	消火設備や避難経路、保管している非常用食料・備品・物品類の点検等を定期的に行っている。	○	防災・リスク委員会を設置し定期的に点検している。	/	/	/	
		e	地域住民や消防署、近隣の他事業所等と日頃から連携を図り、合同の訓練や話し合う機会をつくるなど協力・支援体制を確保している。	○	年1回は、消防署立ち合いのもと、訓練を実施している。地域の消防団や消防署とは連携がとれているが、近隣住民や他事業所との連携や支援体制は図れていない。	○	○	△	
		f	災害時を想定した地域のネットワークづくりに参加したり、共同訓練を行うなど、地域の災害対策に取り組んでいる。(県・市町、自治会、消防、警察、医療機関、福祉施設、他事業所等)	○	年1度地域の共同訓練に参加している。又、災害時の情報伝達訓練や原子力災害の福祉施設受け入れ等を行っている。	/	/	/	
51	地域のケア拠点としての機能	a	事業所は、日々積み上げている認知症ケアの実践力を活かして地域に向けて情報発信したり、啓発活動等に取り組んでいる。(広報活動、介護教室等の開催、認知症サポーター養成研修や地域の研修・集まり等での講師や実践報告等)	○	しおり便りの発行、行事等を通して情報発信をしたり足を運んでもらう機会を作っているが、積極的な啓発活動には及んでいない。	/	/	/	随時、見学や問い合わせ、相談は受け付けており、年4回、認知症のある方、その家族や地域の方、専門職が出来る場所として「笑みちゃんカフェ」を開催しており、充実した相談対応ができています。認知症の勉強会や地域イベントへの参加、他事業所との交流を積極的に行い地域との関係も構築されているなど、地域に根ざした事業所となっている。
		b	地域の高齢者や認知症の人、その家族等への相談支援を行っている。	○	毎月、見学、相談日を設けているが、施設見学はいつでも受け付けており、電話での問い合わせや相談にも対応できるよう努めている。	/	○	○	
		c	地域の人たちが集う場所として事業所を解放、活用している。(サロン・カフェ・イベント等交流の場、趣味活動の場、地域の集まりの場等)	○	地域サロン、フラダンス、演奏会、笑みちゃんカフェ、夏祭り、感謝祭のイベントの際には、事業所を開放し会場として提供し一緒に参加している。又、保育園児の散歩コースにもなっている。	/	/	/	
		d	介護人材やボランティアの養成など地域の人材育成や研修事業等の実習の受け入れに協力している。	○	要望や必要性がある場合は、積極的に受け入れを行っている。	/	/	/	
		e	市町や地域包括支援センター、他の事業所、医療・福祉・教育等各関係機関との連携を密にし、地域活動を協働しながら行っている。(地域イベント、地域啓発、ボランティア活動等)	○	町内清掃の参加や地域イベントには、積極的に参加している。他施設との交流を図ったり、協力医や専門機関との連携等、関係構築に努めている。	/	/	○	

(別表第1)

サービス評価結果表

サービス評価項目

(評価項目の構成)

I.その人らしい暮らしを支える

- (1) ケアマネジメント
- (2) 日々の支援
- (3) 生活環境づくり
- (4) 健康を維持するための支援

II.家族との支え合い

III.地域との支え合い

IV.より良い支援を行うための運営体制

ホップ 職員みんなで自己評価!
 ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
 シャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー
 “愛媛県地域密着型サービス評価”

【外部評価実施評価機関】※評価機関記入

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	愛媛県松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	平成30年10月22日

【アンケート協力数】※評価機関記入

家族アンケート	(回答数) 10名	(依頼数) 18名
地域アンケート回答数	10名	

※事業所記入

事業所番号	3890300126
事業所名	グループホームしおり
(ユニット名)	空
記入者(管理者)	
氏名	網干 直美
自己評価作成日	平成30年 9月 20日

<p>【事業所理念】 ・共に生きる</p>	<p>【前回の目標達成計画で取り組んだこと・その結果】 ①13-A利用者の方、家族の希望や要望をより深く知れるアセスメントツールを作成、活用し、プランに取り込み取り組んだ事で、職員の意識づけと支援の方向性が決まった。→結果:職員間で協力し、重度の利用者の方を含め必要な外出支援が必要なタイミングで少しずつ行えるようになった。 ②51-B毎月、発行する広報誌を自治会の回覧板に掲載して頂いたり、ボランティアの受け入れ、又、地域行事に積極的に参加し交流を図った。 →結果:地域の方に周知して頂き、見学、相談者も増えてきている。</p>	<p>【今回、外部評価で確認した事業所の特徴】 事業所は高台に位置し宇和島市街地が見渡せ、宇和島城を同目線に見ることができる。リビングから真下を覗くと交流のある小学校があり、運動場やプールではしゃぐ子供たちの声を聞き利用者が笑みを浮かばせる光景が見られた。代表者や管理者は利用者の視点を大切に、自分でできることはしてもらえよう、職員と共有を図りながら支援に努めている。利用者は自由に外に出たり、畑で季節の野菜を収穫したり、料理の手伝いや家事の手伝いと役割や楽しみを持ち、生き生きと過ごすことができている。職員は日頃の利用者との関わりを大切にしながら、思いや意向を聴き、実行に移していくことで利用者の活気につながっている。</p>
---------------------------	---	--

評価結果表

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
I.その人らしい暮らしを支える									
(1)ケアマネジメント									
1	思いや暮らし方の希望、意向の把握	a	利用者一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。	○	日頃のコミュニケーションや会話等を通して思いや希望を聞くように努めている。又、得た情報は、記録に残し、職員間で共有している。	◎	/	◎	調査日も「ズボンを買いに行きたい」との要望に応え、利用者と買い物に出かけていた。日常会話の中で利用者の思いや意向を聞き、買い物・外食・外出支援などを行い満足して過ごしてもらえるよう支援している。
		b	把握が困難な場合や不確かな場合は、「本人はどうか」という視点で検討している。	○	本人の生活歴やこれまでの歴史にも目をむけ、本人本位で検討している。	/	/	/	
		c	職員だけでなく、本人をよく知る人(家族・親戚・友人等)とともに、「本人の思い」について話し合っている。	△	面会等に來られた際に、コミュニケーションを図り、本人の思いを伝える事はあっても話し合いまでには至っていない。	/	/	/	
		d	本人の暮らし方への思いを整理し、共有化するための記録をしている。	○	入所時、フェースシートを作成し、全職員で確認している。又、日々の思いや気づきは24hシート等に記録するように努めている。	/	/	/	
		e	職員の思い込みや決めつけにより、本人の思いを見落とさないように留意している。	△	留意して支援しているものの、確認が不足しており、もっと本人の思いを汲み取っていかないといけないと感じている。	/	/	/	
2	これまでの暮らしや現状の把握	a	利用者一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、こだわりや大切にしてきたこと、生活環境、これまでのサービス利用の経過等、本人や本人をよく知る人(家族・親戚・友人等)から聞いている。	○	入所時、家族や関係者から情報収集を行い、職員全員で情報共有を行っている。又、入所後は、面会時にホームでの様子を伝え、聞き取りを行っている。	/	/	○	入居時に利用者や家族、入居前の事業所関係者から情報を得ている。下肢筋力訓練を行っていた利用者が居室にペダルマシンを持ち込むなど馴染みの生活が継続できるよう支援している。
		b	利用者一人ひとりの心身の状態や有する力(わかること・できること・できそうなこと等)等の現状の把握に努めている。	○	ユニット会、モニタリング、アセスメントシート、日々の記録を通して状態を記録に残しながら情報を共有している。又、出来ないことと決めつけず取り組んでもらいどうだったか?で把握しようと努めている。	/	/	/	
		c	本人がどのような場所や場面で安心したり、不安になったり、不安定になったりするかを把握している。	○	ユニット会、モニタリング、アセスメントシート、24hシート等で確認し、状態を記録に残しながら、情報共有を行っている。	/	/	/	
		d	不安や不安定になっている要因が何かについて、把握に努めている。(身体面・精神面・生活環境・職員のかかわり等)	○	ユニット会、モニタリング、アセスメントシート、24hシート等で確認し、状態を記録に残しながら、情報共有を行っている。	/	/	/	
		e	利用者一人ひとりの一日の過ごし方や24時間の生活の流れ・リズム等、日々の変化や違いについて把握している。	○	細かい行動、時間帯を記録に残し、特記事項は申し送りを行っている。又、日々の変化や違いについても記録や申し送り等を通して把握している。	/	/	/	
3	チームで行うアセスメント(※チームとは、職員のみならず本人・家族・本人をよく知る関係者等を含む)	a	把握した情報をもとに、本人が何を求め必要としているのかを本人の視点で検討している。	△	ユニット会、モニタリングを行い、気づきを伝え、それについての意見を話し合っている。	/	/	○	把握した情報は職員全員で共有して話し合い、利用者視点で考えるよう努めている。利用者の「うちに來たら刺身を作ってあげる」という言葉を拾い上げ、職員間で「できるのではないかと話し合い、利用者が実際に刺身をつくることのできた例もある。
		b	本人がより良く暮らすために必要な支援とは何かを検討している。	○	ユニット会、モニタリング等を通して支援方法を検討している。	/	/	/	
		c	検討した内容に基づき、本人がより良く暮らすための課題を明らかにしている。	△	ユニット会、モニタリングを行い、日々の支援から出てくる課題について明らかにするよう努力している。	/	/	/	

愛媛県グループホームしおり

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
4	チームでつくる本人がより良く暮らすための介護計画	a	本人の思いや意向、暮らし方が反映された内容になっている。	○	本人にも確認したり、職員間で話し合い検討し反映されているか確認している。	/	/	/	利用者や家族の要望に基づき介護計画が作成されている。利用者が楽しく暮らせるよう、本や靴などの買い物や外食などを取り入れた支援も大切にしている。
		b	本人がより良く暮らすための課題や日々のケアのあり方について、本人、家族等、その他関係者等と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映して作成している。	△	本人、家族に希望を聞き、職員間で話しあっている。その人らしい支援のあり方を評価してカンファレンス等で話し合っている。	◎	/	○	
		c	重度の利用者に対しても、その人が慣れ親しんだ暮らし方や日々の過ごし方ができる内容となっている。	△	本人の希望に沿うよう話し合いをしている。その方に合った内容になっている。	/	/	/	
		d	本人の支え手として家族等や地域の人たちとの協力体制等が盛り込まれた内容になっている。	△	家族の面会や通院で外出をしているが、地域の協力体制というわけではない。	/	/	/	
5	介護計画に基づいた日々の支援	a	利用者一人ひとりの介護計画の内容を把握・理解し、職員間で共有している。	○	介護計画書は、いつも見やすい場所においており、ケアプランの内容について十分把握している。毎日確認をしチェックを行っている。	/	/	○	介護記録は24時間シートに記入し、介護計画と照らし合わせられる様式となっており、職員は理解しやすく毎日確認することができている。利用者の言葉や表情はそのまま記入されているが、職員のアイディアは豊富にあるものの気づきとして記録することが少ないようである。
		b	介護計画にそってケアが実践できたか、その結果どうだったかを記録して職員間で状況確認を行うとともに、日々の支援につなげている。	○	記録に実施状況や内容を記載している。ユニット会やモニタリングで支援について繰り返し確認している。	/	/	○	
		c	利用者一人ひとりの日々の暮らしの様子(言葉・表情・しぐさ・行動・身体状況・エピソード等)や支援した具体的内容を個別に記録している。	○	利用者一人ひとり、日々の様子等を細かく24hシートに記録している。	/	/	○	
		d	利用者一人ひとりについて、職員の気づきや工夫、アイデア等を個別に記録している。	○	日々の記録に残すよう努めている。	/	/	△	
6	現状に即した介護計画の見直し	a	介護計画の期間に応じて見直しを行っている。	◎	毎月、モニタリングを行いながら検討している。	/	/	○	毎月モニタリングを行い、定期的に見直しを行っている。朝夕の申し送りで利用者の状態を確認している。変化が生じた場合はその都度見直しを行い、現状に即した介護計画を作成している。
		b	新たな要望や変化がみられない場合も、月1回程度は現状確認を行っている。	○	日々のケアにより確認を行い、ユニット会にて検討している。	/	/	○	
		c	本人の心身状態や暮らしの状態に変化が生じた場合は、随時本人、家族等、その他関係者等と見直しを行い、現状に即した新たな計画を作成している。	○	毎月、モニタリングを行い、状態の把握をしながら現状に即せるように努めている。	/	/	○	
7	チームケアのための会議	a	チームとしてケアを行う上での課題を解決するため、定期的、あるいは緊急案件がある場合にはその都度会議を開催している。	○	緊急カンファレンスを行っている。	/	/	○	月1回のユニット会議で課題解決のための話し合いを行っている。緊急時のミーティングも職員全員が積極的に参加している。会議では外部研修の報告をすることで職員の意識向上につなげている。不参加の職員は議事録で確認の上サインし共有を図っている。
		b	会議は、お互いの情報や気づき、考え方や気持ちを率直に話し合い、活発な意見交換ができるよう雰囲気や場づくりを工夫している。	◎	お茶を出し、和やかな雰囲気一人でひとりが言いやすいよう配慮しており意見交換ができている。	/	/	/	
		c	会議は、全ての職員を参加対象とし、可能な限り多くの職員が参加できるよう開催日時や場所等、工夫している。	◎	予め、日程を決め周知している。緊急の場合も多くの職員が参加できるよう勤務や休日の都合等を調整している。	/	/	/	
		d	参加できない職員がいた場合には、話し合われた内容を正確に伝えるしくみをつくっている。	◎	会議内容は記録の残し、閲覧したり、リーダーから口頭で伝達している。	/	/	○	
8	確実な申し送り、情報伝達	a	職員間で情報伝達すべき内容と方法について具体的に検討し、共有できるしくみをつくっている。	○	日誌、連絡ノート、申し送りで共有している。	/	/	○	スタッフ連絡ノートと利用者ノートを使い分け、職員全員で共有している。管理者は文章では職員個々の受け止め方に違いが生じてくることを懸念し、口頭で伝えることも意識している。
		b	日々の申し送りや情報伝達を行い、重要な情報は全ての職員に伝わるようにしている。(利用者の様子・支援に関する情報・家族とのやり取り・業務連絡等)	○	日誌、申し送り等を通して、情報伝達と共有に努めており、確認印を押してもらっている。	◎	/	/	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
(2) 日々の支援									
9	利用者一人ひとりの思い、意向を大切にされた支援	a	利用者一人ひとりの「その日したいこと」を把握し、それを叶える努力を行っている。	△	コミュニケーションをとりながら、思いを把握するように努めているが、それを叶えられない日もある。毎日が同じパターンになってしまう時がある。	/	/	/	朝の着衣を決めたり、お茶タイムではメニュー表から自分の飲みたいものを選んで利用している。日々の暮らしの中で利用者が自然と自己決定できるよう支援している。利用者は掃除・洗濯・調理など得意なことを手伝い、生き生きと生活している。
		b	利用者が日々の暮らしの様々な場面で自己決定する機会や場をつくっている。(選んでもらう機会や場をつくる、選ぶのを待っている等)	○	飲み物や洋服など希望の物を聞いたり、選択して頂く機会を作っている。入浴の時間など希望の時間やタイミングを本人と相談しながら、支援を行っている。	/	/	○	
		c	利用者が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた支援を行うなど、本人が自分で決めたり、納得しながら暮らせるよう支援している。	○	自己決定が難しい利用者に対して働きかけが難しい。コミュニケーションや会話から思いや希望を聞けるよう働きかけている。コミュニケーションを取りながら本人と可能な限り相談しながら支援を行っている。	/	/	/	
		d	職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースや習慣を大切にされた支援を行っている。(起床・就寝、食事・排泄・入浴等の時間やタイミング・長さ等)	△	一人ひとりのペースや習慣を大切に考え支援しているが、時には職員が先導気味になる事がある。しかし無理強いする事はない。	/	/	/	
		e	利用者の生き生きとした言動や表情(喜び・楽しみ・うるおい等)を引き出す言葉がけや雰囲気づくりをしている。	○	利用者に接する時は、明るく笑顔で気持ちの良い態度を心掛けている。コミュニケーションや声かけをする事を意識し、傾聴。その方にあつた楽しみを見出せるよう提案している。	/	/	○	
		f	意思疎通が困難で、本人の思いや意向がつかめない場合でも、表情や全身での反応を注意深くキャッチしながら、本人の意向にそつた暮らし方ができるよう支援している。	○	日頃の関わりの中から、表情や言動等をよく観察しながら状態を把握している。	/	/	/	
10	一人ひとりの誇りやプライバシーを尊重した関わり	a	職員は、「人権」や「尊厳」とは何かを学び、利用者の誇りやプライバシーを大切にされた言葉がけや態度等について、常に意識して行動している。	○	外部研修の参加、又、指導して下さる先輩もおり、日頃からプライバシーについて学んでいる。日頃から十分配慮し、声かけや態度等気をつけている。	◎	○	○	内部研修や外部研修に参加して人権や尊厳について学び、排泄や入浴、更衣などには細心の注意を払っている。居室に入る際のノックと声かけは欠かさないよう配慮している。認知症の理解について、職員全員に周知できていない部分があると管理者は感じており、今後の課題としている。
		b	職員は、利用者一人ひとりに対して敬意を払い、人前であからさまな介護や誘導の声かけをしないよう配慮しており、目立たずさりげない言葉がけや対応を行っている。	○	特に、大きくプライバシーに関わる部分、トイレや入浴、更衣については最新の注意を払っており、利用者に対してさりげない対応や言葉かけを意図している。	/	/	○	
		c	職員は、排泄時や入浴時には、不安や羞恥心、プライバシー等に配慮ながら介助を行っている。	○	不安に繋がる事柄は、事前に声かけをしている。又、カーテンを閉めたりタオルで隠すよう配慮している。	/	/	/	
		d	職員は、居室は利用者専用の場所であり、プライバシーの場所であることを理解し、居室への出入りなど十分配慮しながら行っている。	○	入室する時は、ノックをしたり、外から声をかけてから入室している。	/	/	○	
		e	職員は、利用者のプライバシーの保護や個人情報漏えい防止等について理解し、遵守している。	◎	個人情報、保護について理解している。職場内や職員間のやりとり等、個人情報に関する事を第三者に漏らさないようにしている。	/	/	/	
11	ともに過ごし、支え合う関係	a	職員は、利用者を介護される一方の立場におかず、利用者に助けってもらったり教えてもらったり、互いに感謝し合うなどの関係性を築いている。	○	日々の生活の中で、得意分野を積極的に行ってもらい、職員が教わることも多い。お互いに助け合い共感し支え合っている。	/	/	/	リビングが手狭なためテレビが見えにくかったり、シルバーカーが接触したりと問題になることもあるが、職員が仲介役となり雰囲気よくしている。重度利用者の車いすを他の利用者が押す姿もあり、支え合う関係が築かれている。
		b	職員は、利用者同士がともに助け合い、支え合って暮らしていくことの大切さを理解している。	○	利用者の笑顔や嬉しそうな姿を見た時、支え合う事の大切さや重要性を感じ理解している。	/	/	/	
		c	職員は、利用者同士の関係を把握し、トラブルになったり孤立したりしないよう、利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。(仲の良い利用者同士が過ごせる配慮をする、孤立しがちな利用者が交わる機会を作る、世話役の利用者にうまく力を発揮してもらう場面をつくる等)。	○	利用者同士の関係を大切に支援をしている。全体の雰囲気をみながら、職員が間に入ったり、座席の配置を変更したりと工夫している。	/	/	○	
		d	利用者同士のトラブルに対して、必要な場合にはその解消に努め、当事者や他の利用者に不安や支障を生じさせないようにしている。	○	トラブルが起きそうな場合には、早めに職員が間に入って対応したり、それぞれの利用者別に別の場所で話を聞くなどして、他者への影響がないように支援している。	/	/	/	

愛媛県グループホームしおり

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
12	馴染みの人や場との関係継続の支援	a	これまで支えてくれたり、支えてきた人など、本人を取り巻く人間関係について把握している。	○	本人、ご家族からお聞きしているが、全てではない。近親者、キーパーソンについては把握できている。	/	/	/	
		b	利用者一人ひとりがこれまで培ってきた地域との関係や馴染みの場所などについて把握している。	△	これ迄の生活歴や家族から、情報収集し共有している。	/	/	/	
		c	知人や友人等に会いに行ったり、馴染みの場所に出かけていくなど本人がこれまで大切にしてきた人や場所との関係が途切れないよう支援している。	△	馴染みの美容院、理髪店、食事、通院等、これ迄の繋がりを継続している方もいるが、重度の方は外出が難しくなっている。	/	/	/	
		d	家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪れ、居心地よく過ごせるよう工夫している。	○	昼間は、鍵をかけず、気軽に来られる雰囲気になっている。面会時は、居室やホールでゆっくり過ごして頂けるようにし、本人の近況などを随時報告している。	/	/	/	
13	日常的な外出支援	a	利用者が、1日中ホームの中で過ごすことがないよう、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう取り組んでいる。(職員側の都合を優先したり、外出する利用者、時間帯、行き先などが固定化していない)(※重度の場合は、戸外に出て過ごすことも含む)	△	気候を考慮して、外出、散歩、外出に出たりしているが、一人ひとりの希望に添って取り組むのが難しい時もある。	◎	○	○	日常的に散歩やドライブに出かけられるようにしている。買い物や美容室など個別の外出支援にも取り組んでいる。先日も敷地内の菜園でさつま芋の収穫を利用者と共に行い喜ばれた。重度利用者も日当たりの良い窓際やデッキに連れ出し、外気に触れるよう支援に努めている。
		b	地域の人やボランティア、認知症サポーター等の協力も得ながら、外出支援をすすめている。	×	ご家族、ホームの職員で外出支援を行っているが、地域の人やボランティアの協力は無い。	/	/	/	
		c	重度の利用者も戸外で気持ち良く過ごせるよう取り組んでいる。	△	体調や気候等を考慮しながら、離床する時間をもてるよう支援しているが、戸外にはあまり出られていない。	/	/	○	
		d	本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら、普段は行けないような場所でも出かけられるように支援している。	△	家族に協力してもらい、自宅やお店に外出や外泊して頂ける事がある。	/	/	/	
14	心身機能の維持、向上を図る取り組み	a	職員は認知症や行動・心理症状について正しく理解しており、一人ひとりの利用者の状態の変化や症状を引き起こす要因をひもとき、取り除くケアを行っている。	△	実践者研修等で学んだ事を、日々のケアに繋げるよう努めている。症状が出た時やその前後の様子等を話し合っている。	/	/	/	掃除やおやつ作りを手伝ったりと自分にできることを行っている。服薬も薬袋を破くところからできる利用者にはしてもらっている。職員は指摘や否定することなく温かい眼差しで利用者を見守っている。
		b	認知症の人の身体面の機能低下の特徴(筋力低下・平衡感覚の悪化・排泄機能の低下・体温調整機能の低下・嚥下機能の低下等)を理解し、日常生活を営む中で自然に維持・向上が図れるよう取り組んでいる。	○	日常生活の中で見守りと声かけを行いながら、利用者の動きを抑制しないよう心がけており、毎日、体操を実施、できる限りトイレでの排泄、福祉用具の使用、又、内科、歯科往診を通して身体機能の維持に努めている。	/	/	/	
		c	利用者の「できること、できそうなこと」については、手や口を極力出さずに見守ったり一緒に行うようにしている。(場面づくり、環境づくり等)	○	見守りと声かけを行いながら、できるだけ本人にして頂けるよう心がけている。否定や指摘はせず、職員も一緒にいき、本人の思うように出来るだけして頂いている。	◎	/	○	
15	役割、楽しみごと、気晴らしの支援	a	利用者一人ひとりの生活歴、習慣、希望、有する力等を踏まえて、何が本人の楽しみごとや役割、出番になるのかを把握している。	○	本人とのコミュニケーション、家族との会話を通して、希望や楽しみを把握している。日々の生活から得意分野も把握し、利用者一人ひとりの生活を見守っている。	/	/	/	料理好きな利用者には味付けの確認をしてもらったり、洗濯物をたたんだり日々の暮らしの中で自然と役割ができています。利用者のなかでも意識があり、野菜づくりは利用者に教えてもらうことが多い。
		b	認知症や障害のレベルが進んでも、張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、日常的に、一人ひとりの楽しみごとや役割、出番をつくる取り組みを行っている。	△	一人ひとりに合わせて、得意な事で役割をもてるようにしているが、同じ人に偏ったりしている。	◎	◎	○	
		c	地域の中で役割や出番、楽しみ、張り合いが持てるよう支援している。	△	地域行事等の参加は積極的に行っているが、同じ利用者に偏りがちである。	/	/	/	

愛媛県グループホームしおり

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
16	身だしなみやおしゃれの支援	a	身だしなみを本人の個性、自己表現の一つととらえ、その人らしい身だしなみやおしゃれについて把握している。	○	好きな洋服選びやお化粧、スカーフをしたりと、その人なりのおしゃれを把握している。又、散髪や毛染めなどホームでできる事を本人と相談しながら行っている。				女性利用者はそれぞれに身だしなみを整えている。色鮮やかな服やおしゃれなメガネなど、その人らしさを保てるよう支援している。重度な利用者も含め、髪型は希望を聞き、その人に合ったスタイルにしている。
		b	利用者一人ひとりの個性、希望、生活歴等に応じて、髪形や服装、持ち物など本人の好みで整えられるように支援している。	○	個々に応じて洋服を選んでもらったり、ご自身で整容をされている方もおられる。又、月に1度来て頂いているボランティア散髪美容師さんには、好みの髪型や長さなどご自身で伝えるなどしている。又必要品の買い物は一緒にでかけたり職員が代行している。				
		c	自己決定がしにくい利用者には、職員と一緒に考えたりアドバイスする等本人の気持ちにそって支援している。	○	最初から決めつけず、問いかけの工夫に、二拓にしたりゆっくり考えて頂けるよう、せかさないうえを付けている。又、利用者本人や家族にも相談しながら支援している。				
		d	外出や年中行事等、生活の彩りにあわせてその人らしい服装を楽しめるよう支援している。	○	行事や外出等、その場面に際しておしゃれを楽しんで頂いている。				
		e	整容の乱れ、汚れ等に対し、プライドを大切にしたりさげなくカバーしている。(髭、着衣、履き物、食べこぼし、口の周囲等)	○	自尊心を傷つける事がないよう、さりげない声掛けをしている。	◎	◎	○	
		f	理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。	○	家族にも協力してもらいながら、馴染みの店に行っている。				
		g	重度な状態であっても、髪形や服装等本人らしさが保てる工夫や支援を行っている。	○	重度になっても場面や状況に合わせて髪型、服装の配慮をしている。			○	
17	食事を楽しむことのできる支援	a	職員は、食事の一連のプロセスの意味や大切さを理解している。	○	個々に応じて、調理方法や形態を変え美味しく食べられるよう支援している。				調理を手伝ったり、テーブルの用意など利用者はそれぞれできることを行っている。肉や魚は配達でもらっているが、週1回買い物に行く際は利用者も一緒に行っている。菜園では春夏秋冬に合った野菜が作られており、調査日も利用者が収穫したイモ入り天ぷらを昼食で味わうことができた。外食希望も多く、行事食と同様、好みの物を提供できるよう支援している。食器は一人ひとり馴染みの物を使用し、職員は利用者と同じテーブルを囲み、食事しながら介助の必要な利用者に見配り・気配りを行っている。重度な利用者もリビングに出て調理の音や匂いを感じている。栄養士を中心に職員全員で利用者の食事状態をアセスメントし、形態を変更するなど安全で美味しい食事作りに取り組んでいる。
		b	買い物や献立づくり、食材選び、調理、後片付け等、利用者とともにしている。	△	調理の下ごしらえ、片づけ等、出来る事は一緒に行っているが、時間に余裕がないときできない時もある。			○	
		c	利用者とともに買い物、調理、盛り付け、後片付けをする等を行うことで、利用者の力の発揮、自信、達成感につなげている。	○	手伝って頂く事で、自信、達成感に繋げているが、重度によりできない方もいる。				
		d	利用者一人ひとりの好きなものや苦手なもの、アレルギーの有無などについて把握している。	○	情報収集し、利用者個々の状況を把握している。				
		e	献立づくりの際には、利用者の好みや苦手なもの、アレルギー等を踏まえつつ、季節感を感じさせる旬の食材や、利用者にとって昔なつかしいもの等を取り入れている。	○	アレルギーのある方は、メニュー変更をしている。又、地域の料理、旬の野菜や地元の魚を取り入れ、季節や行事によってメニューを工夫している。			◎	
		f	利用者一人ひとりの咀嚼・嚥下等の身体機能や便秘・下痢等の健康状態にあわせた調理方法とつつ、おいしいような盛り付けの工夫をしている。(安易にミキサー食や刻み食で対応しない、いろどりや器の工夫等)	○	利用者個々に応じて、使いやすい馴染みのある物を持って来て頂いている。				
		g	茶碗や湯飲み、箸等は使い慣れたもの、使いやすいものを使用している。	○	職員はいつも同じ席にならないよう利用者と一緒に食事をして見守っている。迷う場面や進まない時は手前に置き換え声かけをしたり、食べこぼしには、そっと、ティッシュを差し出すなどさりげないサポートを心掛けている。			◎	
		h	職員も利用者と同じ食卓を囲んで食事と一緒に食べながら一人ひとりの様子を見守り、食事のペースや食べ方の混乱、食べこぼしなどに対するサポートをさりげなく行っている。	◎	調理中は、食材、献立、匂い、音、昔の話をしながら雰囲気作りをしている。			○	
		i	重度な状態であっても、調理の音やにおい、会話などを通して利用者が食事が待ち遠しくおいしく味わえるよう、雰囲気づくりや調理に配慮している。	○	調理中は、食材、献立、匂い、音、昔の話をしながら雰囲気作りをしている。		◎	○	
		j	利用者一人ひとりの状態や習慣に応じて食べられる量や栄養バランス、カロリー、水分摂取量が1日を通じて確保できるようにしている。	○	食事は毎食記録している。水分補給も時間を決めてこまめに行っており、希望時にも提供できるよう常備している。				
		k	食事が少なかったり、水分摂取量の少ない利用者には、食事の形態や飲み物の工夫、回数やタイミング等工夫し、低栄養や脱水にならないよう取り組んでいる。	○	食事は毎食記録している。水分補給も時間を決めてこまめに行っており、希望時にも提供できるよう常備している。嗜好品をとりいれたり、食事形態を見直したりしている。				
		l	職員で献立のバランス、調理方法などについて定期的に話し合い、偏りがないように配慮している。場合によっては、栄養士のアドバイスを受けている。	○	栄養士の資格を持つ職員が献立を立てている。時には、献立を変更し食べやすいように配慮している。			○	
		m	食中毒などの予防のために調理用具や食材等の衛生管理を日常的に行い、安全で新鮮な食材の使用と管理に努めている。	◎	キッチンの掃除や整理整頓を行っている。食材の賞味期限や状態をきちんと管理している。				

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
18	口腔内の清潔保持	a	職員は、口腔ケアが誤嚥性肺炎の防止につながることを知っており、口腔ケアの必要性、重要性を理解している。	○	研修やミーティングで学び話し合っている。口腔ケアに使用する道具も利用者個々に合わせている。	/	/	/	利用者個々に応じ、自分でできる範囲で行ってもらい、磨き残しの確認は必ず職員が行うようにしている。2週間に1回訪問歯科の往診があり口腔異常のある利用者には、訪問歯科診療機材を持ち込み、本格的に治療してもらっている。医師や歯科助手から口腔ケアの指導をしてもらいながら、毎月計画を立て口腔内の清潔が保てるよう取り組んでいる。
		b	利用者一人ひとりの口の中の健康状況(虫歯の有無、義歯の状態、舌の状態等)について把握している。	○	訪問歯科の往診がある利用者に関しては、口腔内の状態についてよく把握している。その他でも口腔のことで、不具合がある等早期発見に努めている。	/	/	○	
		c	歯科医や歯科衛生士等から、口腔ケアの正しい方法について学び、日常の支援に活かしている。	○	訪問歯科の医師から指導していただいている。日常の支援に活かせる時と、支援につなげられないことがある。	/	/	/	
		d	義歯の手入れを適切に行えるよう支援している。	○	利用者個々に応じて、管理や洗浄等を支援している。介入できないケースもある。	/	/	/	
		e	利用者の力を引き出しながら、口の中の汚れや臭いが生じないように、口腔の清潔を日常的に支援している。(歯磨き・入れ歯の手入れ・うがい等の支援、出血や炎症のチェック等)	○	利用者個々に応じて、本人にできる範囲で行ってもらったり、訪問歯科を利用している。食事の様子や口腔ケア時等、異常や変化がないか見守っている。	/	/	○	
		f	虫歯、歯ぐきの腫れ、義歯の不具合等の状態をそのままにせず、歯科医に受診するなどの対応を行っている。	○	異常等の早期発見に努め、家族にも相談しながら適切に受診につなげている。	/	/	/	
19	排泄の自立支援	a	職員は、排泄の自立が生きる意欲や自信の回復、身体機能を高めることにつながることや、おむつ(紙パンツ・パッドを含む)の使用が利用者の心身に与えるダメージについて理解している。	○	研修で学んだり、ミーティング時の意見交換で理解に努めている。オムツの使用に関しては必要最低限の使用を心がけている。	/	/	/	トイレでの排泄を基本とした支援に努めている。布パンツをはじめリハビリパンツ、尿取りパッド、ポータブルトイレを使用している利用者もいるが、一人ひとりの尿量を確認し、利用者にあったパッドを選ぶなど職員全員で検討しながら適切な支援に努めている。
		b	職員は、便秘の原因や及ぼす影響について理解している。	○	理解している。	/	/	/	
		c	本人の排泄の習慣やパターンを把握している。(間隔、量、排尿・排便の兆候等)	○	健康チェック表、24hシートの活用、申し送り等で個々の把握に努めているが、排泄動作の自立している方は難しい。	/	/	/	
		d	本人がトイレで用を足すことを基本として、おむつ(紙パンツ・パッドを含む)使用の必要性や適切性について常に見直し、一人ひとりのその時々状態にあった支援を行っている。	○	ユニット会等で話し合い、必要性を検討している。個々に応じた形状容量等で種類を選べている。できるだけ、トイレでの排泄ができるよう支援している。	◎	/	○	
		e	排泄を困難にしている要因や誘因を探り、少しでも改善できる点はないか検討しながら改善に向けた取り組みを行っている。	○	排泄状況を把握しながら、食事、水分、運動等に影響している点はないか考えながら支援している。	/	/	/	
		f	排泄の失敗を防ぐため、個々のパターンや兆候に合わせて早めの声かけや誘導を行っている。	○	一人ひとりの排泄パターンを把握し、兆候がみられたら声かけ、誘導を行っている。	/	/	/	
		g	おむつ(紙パンツ・パッドを含む)を使用する場合は、職員が一方的に選択するのではなく、どういう時間帯にどのようなものを使用するか等について本人や家族と話し合い、本人の好みや自分で使えるものを選択できるよう支援している。	○	都度、職員間で話し合い、使用する時間帯やオムツの種類等を検討している。	/	/	/	
		h	利用者一人ひとりの状態に合わせて下着やおむつ(紙パンツ・パッドを含む)を適時使い分けている。	○	本人の希望や使用目的に応じた使い分けができています。	/	/	/	
		i	飲食物の工夫や運動への働きかけなど、個々の状態に応じて便秘予防や自然排便を促す取り組みを行っている。(薬に頼らない取り組み)	△	食物繊維の多い食事や乳製品の提供、こまめな水分補給、運動の促し等を行っているが、薬に頼っている部分もある。	/	/	/	
20	入浴を楽しむことができる支援	a	曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、利用者一人ひとりの希望や習慣にそって入浴できるよう支援している。(時間帯、長さ、回数、温度等)。	△	毎日入浴ができるよう準備している。利用者個々に応じて生活の習慣やリズム、希望等を考慮して支援しているが、職員側の都合になってしまう事もある。	◎	/	○	利用者の要望に応え、入浴時間も日勤帯であれば自由である。毎日入る利用者もおり、1ユニットには特殊浴槽が完備され、利用者の状態に合わせた支援ができています。
		b	一人ひとりが、くつろいだ気分で入浴できるよう支援している。	○	一人ずつ入浴できている。支援の必要の有無や状況に応じ、介入しないよう支援している。	/	/	/	
		c	本人の力を活かしながら、安心して入浴できるよう支援している。	○	本人が出来るところはして頂いている。サポートが必要な所はさりげない声掛けをしながら支援している。	/	/	/	
		d	入浴を拒む人に対しては、その原因や理由を理解しており、無理強いせず気持ち良く入浴できるよう工夫している。	○	体調や本人の気持ちを尊重し、時間を変えて声かけしたり、日を変えて対応している。	/	/	/	
		e	入浴前には、その日の健康状態を確認し、入浴の可否を見極めるとともに、入浴後の状態も確認している。	○	入浴前にバイタルチェック、全身状態のチェックをしている。その時の体調や状態を見て入浴を決めている。入浴後は水分補給をしている。	/	/	/	

愛媛県グループホームしおり

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
21	安眠や休息の支援	a	利用者一人ひとりの睡眠パターンを把握している。	○	夜間帯の記録や申し送り、日々のケアから睡眠パターンを把握している。	/	/	/	利用者の希望を含め、現在医師と相談しながら服薬中の利用者が数名いる。服薬が危険の回避となった例もあり医師との相談は欠かせない。日中活動を増やしたりするなどを基本に、工夫しながら安眠につながるよう支援している。
		b	夜眠れない利用者についてはその原因を探り、その人本来のリズムを取り戻せるよう1日の生活リズムを整える工夫や取り組みを行っている。	○	昼夜逆転しないよう、日中の活動を維持できるよう努めている。	/	/	/	
		c	睡眠導入剤や安定剤等の薬剤に安易に頼るのではなく、利用者の数日間の活動や日中の過ごし方、出来事、支援内容などを十分に検討し、医師とも相談しながら総合的な支援を行っている。	○	日中の活動や過ごし方と並行して、医師との連携を取りながら、必要に応じて内服薬なども検討している。	/	/	/	
		d	休息や昼寝等、心身を休める場面が個別に取れるよう取り組んでいる。	○	いつでも居室で休むことができる。その日の体調や前夜の睡眠具合を考慮し、臨機応変に対応している。	/	/	/	
22	電話や手紙の支援	a	家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	○	携帯電話を自由に使っている方もおられる。その他でも要望があれば電話や手紙の代筆等できるように備えている。	/	/	/	
		b	本人が手紙が書けない、電話はかけられないと決めつけず、促したり、必要な手助けをする等の支援を行っている。	○	要望があれば電話の取次ぎをしたり、本人の希望があれば、季節のはがき(年賀状・暑中見舞い等)が出せるよう、個々に応じて支援するよう心がけている。	/	/	/	
		c	気兼ねなく電話できるよう配慮している。	△	ユニット事に電話を設置されており、取り次いでいる。利用者からの要望があれば、ご家族に先に確認した上でかけている。	/	/	/	
		d	届いた手紙や葉書をそのままにせず音信がとれるように工夫している。	○	郵便物などは本人に渡し、代読したり一緒に確認したりしている。返事を書く場合必要に応じて、代筆など支援している。	/	/	/	
		e	本人が電話をかけることについて家族等に理解、協力をしてもらおうとともに、家族等からも電話や手紙をくれるようお願いしている。	○	電話をかける場合は、先に職員が、経緯や内容を説明してから取り次いだり、事前に協力を依頼している。	/	/	/	
23	お金の所持や使うことの支援	a	職員は本人がお金を所持すること、使うことの意味や大切さを理解している。	○	使用する機会が少ないが、お金を持っていることの安心感等利用者個々に応じて理解している。	/	/	/	
		b	必要物品や好みの買い物に出かけ、お金の所持や使う機会を日常的につくっている。	△	要望があれば、一緒に出かけ買い物をすることもありますが、管理が難しい方が多く、本人が所持されている方は少ない。	/	/	/	
		c	利用者が気兼ねなく安心して買い物ができるよう、日頃から買い物先の理解や協力を得る働きかけを行っている。	△	要望があれば一緒に出かけ買い物をすることもある。	/	/	/	
		d	「希望がないから」「混乱するから」「失くすから」などと一方的に決めてしまうのではなく、家族と相談しながら一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	△	お金を持つことで安心感につながる利用者もおられるが、日常的にそのお金を使う場面が少ない。	/	/	/	
		e	お金の所持方法や使い方について、本人や家族と話し合っている。	○	入所時に話し合い決めている。	/	/	/	
		f	利用者が金銭の管理ができない場合には、その管理方法や家族への報告の方法などルールを明確にしており、本人・家族等の同意を得ている。(預り金規程、出納帳の確認等)。	○	入所時に話し合い決めている。現金出納帳に記載し、毎月使用した分のコピーを送り、確認して頂いている。	/	/	/	
24	多様なニーズに応える取り組み		本人や家族の状況、その時々ニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	○	本人や家族等と相談しながらそのニーズに対応できるよう柔軟に対応できるよう備えている。	◎	/	◎	買い物、外食、墓参り、外泊など家族と相談しながら柔軟に対応できるよう支援している。調査日の買い物も利用者の急な要望であったが、職員は気持ちよく対応しすぐ行動に移していた。

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
(3)生活環境づくり									
25	気軽に入れる 玄関まわり等の配慮		利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、気軽に入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。	○	掃除や環境整備をし、ベンチやテーブル、椅子などを置き、明るい雰囲気作りを心がけている。	◎	◎	◎	門扉から玄関までの庭は芝生の手入れがされており、利用者と一緒に植え育てている季節の花が出迎えてくれる。玄関ホールは広く、写真付きで職員を紹介したボードやソファが置かれ、ゆっくりくつろげる雰囲気づくりがされている。
26	居心地の良い 共用空間づくり	a	共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、家庭的な雰囲気を有しており、調度や設備、物品や装飾も家庭的で、住まいとしての心地良さがある。(天井や壁に子供向けの飾りつけをしていたり、必要なものが置いていない殺風景な共用空間等、家庭的な雰囲気をそぐような設えになっていないか等。)	○	玄関やホールでは季節の花を飾ったり、季節や行事の装飾品を置いたりしている。くつろげるスペースを確保したり家庭的な環境を整えている。	◎	◎	◎	玄関やホール、リビングにはコスモスなど季節の花が花瓶で置かれ、廊下には職員と利用者で作った「山田の案山子」やハロウィーンの飾りつけがされている。玄関から廊下にかけて吹き抜けとなっており解放感がある。冬季には空気清浄機や加湿器などを置き、利用者の健康管理にも配慮している。窓からはコスモス畑や野菜畑を見ることができ、生活感や季節感を味わいながら過ごすことができている。
		b	利用者にとって不快な音や光、臭いがないように配慮し、掃除も行き届いている。	○	掃除、環境整備、空調、臭い等日々気を付けている。ポータブルトイレを設置している部屋には、消臭剤も使用している。	/	/	/	
		c	心地よさや能動的な言動を引き出すために、五感に働きかける様々な刺激(生活感や季節感を感じるもの)を生活空間の中に採り入れ、居心地よく過ごせるよう工夫している。	○	掲示物等で季節感を感じられるようにしている。地域のお祭りなど慣れ親しんだ音楽をかけたリクリエーションに取り入れている。	/	/	/	
		d	気の合う利用者同士で思い思いに過ごせたり、人の気配を感じながらも独りになれる居場所の工夫をしている。	○	リビング、廊下などにソファを設置し、気の合う利用者同士談笑できるようにしている。又、馴染みの場づくりや、独りで過ごせる環境も整っている。	/	/	/	
		e	トイレや浴室の内部が共用空間から直接見えないよう工夫している。	○	カーテン、扉で内部が直接見えないようにしている。	/	/	/	
27	居心地良く過ごせる 居室の配慮		本人や家族等と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	○	馴染みの家具等、使い慣れた物を持って来て頂いている。写真の掲示や家具等の配置を本人と家族とも相談しながら決めている。	◎	/	/	テレビやラジオ、携帯電話、椅子や洋風衣装ケースなど自宅で愛用していた物が持ち込まれている。多趣味な利用者の居室は使い勝手がいいようにレイアウトされ、利用者の好みに合わせた部屋づくりがされている。
28	一人ひとりの力が 活かせる環境づくり	a	建物内部は利用者一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように配慮や工夫をしている。	○	各居室には表札を設置している。又、トイレや浴室など掲示の工夫をし、わかりやすく見えるよう配慮している。	/	/	/	室内は手すりが設置がされトイレには「便所」、浴室には「ゆ」と書かれた暖簾を下げるなど、場所がわかるように工夫されている。廊下には不要な物を置かず、利用者が安全に自分のことができるよう支援している。
		b	不安や混乱、失敗を招くような環境や物品について検討し、利用者の認識間違いや判断ミスを最小にする工夫をしている。	○	利用者個々に応じて、不安や混乱、失敗等につながる場合の環境調整や支援をしている。	/	/	/	
		c	利用者の活動意欲を触発する馴染みの物品が、いつでも手に取れるように生活空間の中にさりげなく置かれている。(ほうき、裁縫道具、大工道具、園芸用品、趣味の品、新聞・雑誌、ポット、急須・湯飲み・お茶の道具等)	○	新聞や広報などが手にとれる所に置いてあり、危険があると思われるものは、希望時にお出ししている。雑誌、広告、花など生活空間の中にさりげなく配置している。	/	/	/	
29	鍵をかけない ケアの取り組み	a	代表者及び全ての職員が、居室や日中にユニット(棟)の出入り口、玄関に鍵をかけることの弊害を理解している。(鍵をかけられ出られない状態で暮らしていることの異常性、利用者にもたらす心理的不安や閉塞感・あきらめ・気力の喪失、家族や地域の人にもたらす印象のデメリット等)	◎	玄関チャイムを設置している。日中は鍵をしていない。自由に入出入りできる環境を整えている。	◎	◎	◎	職員は施錠することの弊害について理解している。面会等来客に配慮しチャイムは取り付けているが、玄関は施錠することなく扉も解放したままであり、利用者は自由に入出入りすることができる。
		b	鍵をかけない自由な暮らしについて家族の理解を図っている。安全を優先するために施錠を望む家族に対しては、自由の大切さと安全確保について話し合っている。	◎	家族と意見交換しながら、ホームでの生活について伝えている。	/	/	/	
		c	利用者の自由な暮らしを支え、利用者や家族等に心理的圧迫をもたらさないよう、日中は玄関に鍵をかけなくてもすむよう工夫している(外出の察知、外出傾向の把握、近所の理解・協力の促進等)。	○	玄関チャイムを設置している。利用者の自由な行動を妨げず、見守りや声かけをしながら支援している。	/	/	/	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
(4) 健康を維持するための支援									
30	日々の健康状態や病状の把握	a	職員は、利用者一人ひとりの病歴や現病、留意事項等について把握している。	◎	情報収集した内容を確認している。申し送りや日誌の活用、看護記録や通院状況なども把握している。	/	/	/	
		b	職員は、利用者一人ひとりの身体状態の変化や異常のサインを早期に発見できるように注意しており、その変化やサインを記録に残している。	○	24時間シートに記録している。体調変化に気を付けその都度記録に残している。	/	/	/	
		c	気になることがあれば看護職やかかりつけ医等にいつでも気軽に相談できる関係を築き、重度化の防止や適切な入院につなげる等の努力をしている。	◎	主治医や事業所の看護師などへの相談をよくしながら、利用者個々に応じて支援している。	/	/	/	
31	かかりつけ医等の受診支援	a	利用者一人ひとりのこれまでの受療状況を把握し、本人・家族が希望する医療機関や医師に受診できるよう支援している。	○	本人や家族に相談しながら医療機関や医師に受診できる様支援している。	◎	/	/	
		b	本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	○	本人や家族の意向や希望をよく聞き、納得できる医療機関との連携を図っている。何かあればその都度家族に相談し、決定しながら支援している。	/	/	/	
		c	通院の仕方や受診結果の報告、結果に関する情報の伝達や共有のあり方等について、必要に応じて本人や家族等の合意を得られる話し合いを行っている。	○	通院の同行や付き添い、結果報告などその都度行っている。	/	/	/	
32	入退院時の医療機関との連携、協働	a	入院の際、特にストレスや負担を軽減できる内容を含む本人に関する情報提供を行っている。	○	入院の際は情報提供を行い、本人の状態等を伝えている。	/	/	/	
		b	安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。	○	管理者、看護職員が主に病院関係者と連絡を取り合いながら、随時家族とも連携して行っている。	/	/	/	
		c	利用者の入院時、または入院した場合に備えて日頃から病院関係者との関係づくりを行っている。	△	定期的な受診を通して、関係づくりをしている。	/	/	/	
33	看護職との連携、協働	a	介護職は、日常の関わりの中で得た情報や気づきを職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談している。看護職の配置や訪問看護ステーション等との契約がない場合は、かかりつけ医や協力医療機関等に相談している。	○	日頃から事業所の看護職によく相談できている。かかりつけ医への相談も随時行っている。	/	/	/	
		b	看護職もしくは訪問看護師、協力医療機関等に、24時間いつでも気軽に相談できる体制がある。	○	事業所の看護職や、かかりつけ医には気軽に連絡・相談ができる。	/	/	/	
		c	利用者の日頃の健康管理や状態変化に応じた支援が適切にできるよう体制を整えている。また、それにより早期発見・治療につなげている。	○	毎日バイタルチェックを行い、変化や異常がないか観察している。何かあればすぐに相談できるように努めている。	/	/	/	
34	服薬支援	a	職員は、利用者が使用する薬の目的や副作用、用法や用量について理解している。	◎	処方箋や薬の説明、受診記録等から確認している。又、看護師は服薬状況管理表を作成しており、いつでも確認できるようにしている。	/	/	/	
		b	利用者一人ひとりが医師の指示どおりに服薬できるよう支援し、飲み忘れや誤薬を防ぐ取り組みを行っている。	○	服薬準備を利用者個々に応じて行っている。服薬する際は飲み込みの確認が必要な場合もあり、その都度支援している。	/	/	/	
		c	服薬は本人の心身の安定につながっているのか、また、副作用(周辺症状の誘発、表情や活動の抑制、食欲の低下、便秘や下痢等)がないかの確認を日常的に行っている。	○	日々の状態や様子を観察しながら変化や異常があれば、看護職やかかりつけ医に報告している。	/	/	/	
		d	漫然と服薬支援を行うのではなく、本人の状態の経過や変化などを記録し、家族や医師、看護職等に情報提供している。	○	本人の状態や変化等、服薬に際しての状態などを家族、医師、看護職に報告しながら連携をとっている。	/	/	/	

愛媛県グループホームしおり

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
35	重度化や終末期への支援	a	重度化した場合や終末期のあり方について、入居時、または状態変化の段階ごとに本人・家族等と話し合いを行い、その意向を確認しながら方針を共有している。	○	随時家族と相談しながら、その都度生まれてくる疑問や不安などに対して、話し合いを通して確認している。終末期や延命治療など方針を聞きながら職員間で教諭している。	/	/	/	「看取り指針」を定め看取りを実施している。家族の揺れ動く気持ちに寄り添いながら何度も何度も話し合いをもち、医師との連携を図りながら関係者全員で方針を共有するよう努めている。看護師の配置も多く、医療面において介護職員の心強さとなっている。
		b	重度化、終末期のあり方について、本人・家族等だけでなく、職員、かかりつけ医・協力医療機関等関係者で話し合い、方針を共有している。	○	カンファレンスやかかりつけ医の往診時等、家族や本人と共に今後について話し合い方針を決めている。	○	/	○	
		c	管理者は、終末期の対応について、その時々職員の思いや力量を把握し、現状ではどこまでの支援ができるかの見極めを行っている。	○	カンファレンスを実施し、職員にできることの確認や、連絡手段、対応方法について共有している。	/	/	/	
		d	本人や家族等に事業所の「できること・できないこと」や対応方針について十分な説明を行い、理解を得ている。	○	その都度話し合いを行いながら、理解して頂いている。	/	/	/	
		e	重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、家族やかかりつけ医など医療関係者と連携を図りながらチームで支援していく体制を整えている。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。	○	重度や終末期の段階において、変化や何かあった場合は家族やかかりつけ医とこまめに連絡を取っている。その際、今後の考えられる経過やどう対応したらよいか等相談している。	/	/	/	
		f	家族等への心理的支援を行っている。(心情の理解、家族間の事情の考慮、精神面での支え等)	○	家族等の面会の際には、声かけやコミュニケーションを通して気持ちを聞けるよう心がけている。	/	/	/	
36	感染症予防と対応	a	職員は、感染症(ノロウイルス、インフルエンザ、白癬、疥癬、肝炎、MRSA等)や具体的な予防策、早期発見、早期対応策等について定期的に学んでいる。	○	研修会などに参加しながら学んでいる。	/	/	/	
		b	感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、万が一、感染症が発生した場合に速やかに手順にそった対応ができるよう日頃から訓練を行うなどして体制を整えている。	○	感染対策のマニュアルがあるが、日ごろからの訓練が不足している。	/	/	/	
		c	保健所や行政、医療機関、関連雑誌、インターネット等を通じて感染症に対する予防や対策、地域の感染症発生状況等の最新情報を入手し、取り入れている。	○	テレビ、新聞、保健所、医療機関からの情報を取り入れている。	/	/	/	
		d	地域の感染症発生状況の情報収集に努め、感染症の流行に随時対応している。	○	テレビ、新聞、保健所、医療機関から情報を取り入れ、流向時等には注意喚起をしながら予防に努めている。	/	/	/	
		e	職員は手洗いやうがいなど徹底して行っており、利用者や来訪者等についても清潔が保持できるよう支援している。	○	日頃から手洗いうがいの意識づけができています。	/	/	/	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
II. 家族との支え合い									
37	本人とともに支え合う 家族との関係づくりと支援	a	職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽をともにし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	○	面会時や電話など、本人の様子や状態を報告して話をしている。家族とのコミュニケーションを大切にしている。	/	/	/	家族の面会は多く、時には面会中に利用者と一緒にレクリエーションに参加する家族もいる。行事や外出などは、家族の参加協力を得ている。毎月便りを送付する際に手紙を添え、利用者の活動状況や日頃の様子、職員の異動や退職を含め、運営上の事柄も伝えるようにしている。面会時や運営推進会議などで、家族から意見や要望が言いやすいよう雰囲気づくりに努めている。
		b	家族が気軽に訪れ、居心地よく過ごせるような雰囲気づくりや対応を行っている。(来やすい雰囲気、関係再構築の支援、湯茶の自由利用、居室への宿泊のしやすさ等)	○	面会時は居室やホールでゆっくり過ごしていただけるよう声かけしている。お茶やおやつ等をお出しし、利用者本人と共につろいでいただけるように対応している。	/	/	/	
		c	家族がホームでの活動に参加できるように、場面や機会を作っている。(食事づくり、散歩、外出、行事等)	○	日頃の外出や通院、行事等を協力いただき、機会を作っている。	◎	/	○	
		d	来訪する機会が少ない家族や疎遠になってしまっている家族も含め、家族の来訪時や定期的な報告などにより、利用者の暮らしぶりや日常の様子を具体的に伝えている。「たより」の発行・送付、メール、行事等の録画、写真の送付等)	○	毎月家族に向けてお手紙を送付し、本人の様子をお伝えしたり、しおり便りを同封し、ホームでの活動状況などをお伝えしている。	◎	/	○	
		e	事業所側の一方的な情報提供ではなく、家族が知りたいことや不安に感じていること等の具体的内容を把握して報告を行っている。	△	会話やコミュニケーションを通して、家族の面会時等に話をしている。	/	/	/	
		f	これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係を築いていけるように支援している。(認知症への理解、本人への理解、適切な接し方・対応等についての説明や働きかけ、関係の再構築への支援等)	○	利用者本人の状況や様子を随時伝えつつ、家族が不安や心配すぎないよう、フォローしている。	/	/	/	
		g	事業所の運営上の事柄や出来事について都度報告し、理解や協力を得るようにしている。(行事、設備改修、機器の導入、職員の異動・退職等)	△	運営推進会議やしおり便り等で報告している。職員の異動退職については不十分である。	◎	/	○	
		h	家族同士の交流が図られるように、様々な機会を提供している。(家族会、行事、旅行等への働きかけ)	△	運営推進会議、行事等への参加のお誘いをしている。	/	/	/	
		i	利用者一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている。	○	体調変化や、それが予測される状態の時などは随時連絡を取っている。できるだけ事前に相談しながら伝えている。	/	/	/	
		j	家族が、気がかりなことや、意見、希望を職員に気軽に伝えたり相談したりできるように、来訪時の声かけや定期的な連絡等を積極的に行っている。	○	面会や来訪時に、声かけを行いコミュニケーションをとるように心がけている。	/	/	○	
38	契約に関する説明と納得	a	契約の締結、解約、内容の変更等の際は、具体的な説明を行い、理解、納得を得ている。	◎	入居契約の際、理解、納得して頂きながら進めている。	/	/	/	
		b	退居については、契約に基づくとともにその決定過程を明確にし、利用者や家族等に具体的な説明を行った上で、納得のいく退居先に移れるように支援している。退居事例がない場合は、その体制がある。	○	退去に際しては、利用者家族と話し合い、ケースごとに対応できるようにしている。	/	/	/	
		c	契約時及び料金改定時には、料金の内訳を文書で示し、料金の設定理由を具体的に説明し、同意を得ている。(食費、光熱水費、その他の実費、敷金設定の場合の償却、返済方法等)	◎	料金の変更がある場合は、予め家族への手紙や電話連絡、運営推進会議等で報告、説明し、同意を得ている。	/	/	/	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
Ⅲ.地域との支え合い									
39	地域とのつきあいやネットワークづくり ※文言の説明 地域:事業所が所在する市町の日常生活圏域、自治会エリア	a	地域の人に対して、事業所の設立段階から機会をつくり、事業所の目的や役割などを説明し、理解を図っている。	○	近隣地域の人に対して、しおり便りを配布したり、行事の際のお誘いに出向いたりしている。	/	◎	/	地域のボランティア清掃や夏祭りなど積極的に参加している。保育園や小学校との交流も盛んで、行事毎の行き来ができています。小学校でテレビでも有名な俳句の講師を招いての「俳句ライブin天神」が開催され、利用者と一緒に参加したりしている。
		b	事業所は、孤立することなく、利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、地域の人たちに対して日頃から関係を深める働きかけを行っている。(日常的なあいさつ、町内会・自治会への参加、地域の活動や行事への参加等)	○	地域行事がある時は、積極的に参加している。その中であいさつやコミュニケーションは大切にしている。	/	◎	○	
		c	利用者を見守ったり、支援してくれる地域の人たちが増えている。	△	民生委員の方や近所の商店の方などと少しずつ顔みしりとなり声をかけて下さる。	/	/	/	
		d	地域の人気が気軽に立ち寄り遊びに来たりしている。	○	いつもではないが、子供や地域の方が立ち寄ることがある。	/	/	/	
		e	隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらうなど、日常的なおつきあいをしている。	△	散歩時に声をかけて下さったり、しおり便りを配布している。	/	/	/	
		f	近隣の住民やボランティア等が、利用者の生活の拡がりや充実を図ることを支援してくれるよう働きかけを行っている。(日常的な活動の支援、遠出、行事等の支援)	○	散髪、カラオケ、サロン等地域の協力をいただき、ホーム内での行事等に参加していただいている。	/	/	/	
		g	利用者一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	○	地域行事に可能な限り出かけていき交流している。	/	/	/	
		h	地域の人たちや周辺地域の諸施設からも協力を得ることができるよう、日頃から理解を拡げる働きかけや関係を深める取り組みを行っている(公民館、商店・スーパー・コンビニ、飲食店、理美容店、福祉施設、交番、消防、文化・教育施設等)。	○	地域の小学校や保育園、商店などの協力もありホームに訪問して頂いている。しおり便りの配布や、地域行事に出向いたり日常の中で行っている。	/	/	/	
40	運営推進会議を活かした取り組み	a	運営推進会議には、毎回利用者や家族、地域の人等の参加がある。	○	家族や地域の人等の参加はあるが、利用者が参加する機会はない。	◎	/	△	運営推進会議には地域住民や家族の参加はあるが、利用者の参加には至っていないので、参加できるよう工夫して欲しい。会議では事業所の活動や利用者の状況、外部評価の取組みが報告され、サービスの要望や助言をもらうことができています。会議の参加者からの意見や提案等が少ないので、今後は参加者から意見等がもらえるよう進行等の工夫に期待したい。
		b	運営推進会議では、利用者やサービスの実績、評価への取り組み状況(自己評価・外部評価の内容、目標達成計画の内容と取り組み状況等)について報告している。	◎	外部評価の結果がまとめ次第、運営推進鍵で報告している。	/	/	○	
		c	運営推進会議では、事業所からの一方的な報告に終わらず、会議で出された意見や提案等を日々の取り組みやサービス向上に活かし、その状況や結果等について報告している。	△	事業所からの一方的な報告だけでなく、参加者に意見をいただけるよう働きかけているが提案などは少ない。	/	◎	△	
		d	テーマに合わせて参加メンバーを増やしたり、メンバーが出席しやすい日程や時間帯について配慮・工夫をしている。	○	年間の予定をたてており、事前に日程をお知らせしている。	/	/	○	
		e	運営推進会議の議事録を公表している。	×	要望があればお答えできるように備えている。	/	/	/	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
IV.より良い支援を行うための運営体制									
41	理念の共有と実践	a	地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、代表者、管理者、職員は、その理念について共通認識を持ち、日々の実践が理念に基づいたものになるよう日常的に取り組んでいる。	○	ホーム玄関に事業所全体の理念を掲示し確認している。又、各ユニットで目標を決め年に一度振り返り、見直しを行っている。	/	/	/	
		b	利用者、家族、地域の人たちにも、理念をわかりやすく伝えている。	○	理念は玄関に掲示しており、しおり便りにも掲載している。見学者には、その際に伝えている。	○	○	/	
42	職員を育てる取り組み ※文言の説明 代表者：基本的には運営している法人の代表者であり、理事長や代表取締役が該当するが、法人の規模によって、理事長や代表取締役をその法人の地域密着型サービス部門の代表者として扱うのは合理的ではないと判断される場合、当該部門の責任者などを代表者として差し支えない。したがって、指定申請書に記載する代表者と異なることはありうる。	a	代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、計画的に法人内外の研修を受けられるよう取り組んでいる。	◎	研修に参加できるよう周知や声かけを行っている。代表者は現場を見たり、面接を行い、職員とのコミュニケーションを図りながら把握している。	/	/	/	日頃から業務の中で代表者は職員と関わりを持ち、コミュニケーションが図れるよう努めている。代表者は女性で話しやすいとのことで、職員の誕生日にリフレッシュ休暇として連休を設けたり、夏冬と職員の交流となる食事の場をつくるなど働きやすい環境づくりに取り組んでいる。
		b	管理者は、OJT(職場での実務を通して行う教育・訓練・学習)を計画的に行い、職員が働きながらスキルアップできるよう取り組んでいる。	△	ミーティングの際、話し合いの中で取り組んでいる。	/	/	/	
		c	代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	△	職員個々に向けて取り組んでいる。シフトや業務内容に負担がないか管理者と話し合いが行われている。	/	/	/	
		d	代表者は管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互研修などの活動を通して職員の意識を向上させていく取り組みをしている。(事業者団体や都道府県単位、市町単位の連絡会などへの加入・参加)	○	研修や交流会などへの参加を心がけている。研修参加について、管理者から職員に案内したり直接声をかけている。	/	/	/	
		e	代表者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。	○	面接や日頃の業務の中でコミュニケーションをとりながら話を聞いてくれる。	◎	○	○	
43	虐待防止の徹底	a	代表者及び全ての職員は、高齢者虐待防止法について学び、虐待や不適切なケアに当たるのは具体的にどのような行為なのかを理解している。	○	研修で学んだり、職員間で話し合い取り組んでいる。利用者の生活の中で、ケアを振り返り適切なケアを検討している。	/	/	/	不適切な言動には細心の注意を払っている。気になる場合には職員間で常に話し合うなど意識している。職員は内部・外部研修で意識向上につなげながら、不適切な行為の対応方法などの共有を図っている。
		b	管理者は、職員とともに日々のケアについて振り返ったり話し合ったりする機会や場をつくっている。	◎	ミーティングや日頃から話し合う場で気づきを出し合い検討している。	/	/	/	
		c	代表者及び全ての職員は、虐待や不適切なケアが見逃されることがないように注意を払い、これらの行為を発見した場合の対応方法や手順について知っている。	○	言葉や関わり態度が不適切であったり虐待に繋がっていないか意識している。怪我や状態に変化がある時は、職員間で報告し合っている。	/	/	○	
		d	代表者、管理者は職員の疲労やストレスが利用者へのケアに影響していないか日常的に注意を払い、点検している。	○	職員の日々の様子に気を付け、本人に声をかけたり話を聞いたりしている。	/	/	/	
44	身体拘束をしないケアの取り組み	a	代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」や「緊急やむを得ない場合」とは何かについて正しく理解している。	○	研修やミーティングを通して、職員間で話し合いながら事例に合わせて検討している。	/	/	/	
		b	どのようなことが身体拘束に当たるのか、利用者や現場の状況に照らし合わせて点検し、話し合う機会をつくっている。	◎	身体拘束等の適正化対策委員会を立ち上げ、委員会を中心に定期的に話し合いをしている。	/	/	/	
		c	家族等から拘束や施設等の要望があっても、その弊害について説明し、事業所が身体拘束を行わないケアの取り組みや工夫の具体的内容を示し、話し合いを重ねながら理解を図っている。	○	身体拘束について、家族等と話し合いながら理解をして頂いている。	/	/	/	

愛媛県グループホームしおり

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
45	権利擁護に関する制度の活用	a	管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学び、それぞれの制度の違いや利点などを含め理解している。	△	研修に参加し、理解できるよう努めている。				
		b	利用者や家族の現状を踏まえて、それぞれの制度の違いや利点なども含め、パンフレット等で情報提供したり、相談にのる等の支援を行っている。	×	現在そのようなケースがない。				
		c	支援が必要な利用者が制度を利用できるよう、地域包括支援センターや専門機関(社会福祉協議会、後見センター、司法書士等)との連携体制を築いている。	○	支援が必要である場合は、専門機関等の関係各所に繋げるよう備えている。				
46	急変や事故発生時の備え・事故防止の取り組み	a	怪我、骨折、発作、のど詰まり、意識不明等利用者の急変や事故発生時に備えて対応マニュアルを作成し、周知している。	△	マニュアルはあるが、周知徹底が不十分である。連絡体制は整備しており、施設長、管理者、看護職からの指示を受けるようにしている。				
		b	全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	○	看護職からの指導等が主である。実践に向けては不安があるのが現状である。				
		c	事故が発生した場合の事故報告書はもとより、事故の一手手前の事例についてもヒヤリハットにまとめ、職員間で検討するなど再発防止に努めている。	○	ヒヤリハットを活用し、再発防止に努め検討している。				
		d	利用者一人ひとりの状態から考えられるリスクや危険について検討し、事故防止に取り組んでいる。	○	利用者個々に応じて、リスクや環境調整等を考慮し取り組んでいる。				
47	苦情への迅速な対応と改善の取り組み	a	苦情対応のマニュアルを作成し、職員はそれを理解し、適宜対応方法について検討している。	△	マニュアルがあるが周知徹底が不十分である。				
		b	利用者や家族、地域等から苦情が寄せられた場合には、速やかに手順に沿って対応している。また、必要と思われる場合には、市町にも相談・報告等している。	○	苦情や不満につながるようなケースもあるので、何かあれば利用者家族へ随時報告、相談を行っている。				
		c	苦情に対しての対策案を検討して速やかに回答するとともに、サービス改善の経過や結果を伝え、納得を得ながら前向きな話し合いと関係づくりを行っている。	○	苦情とまでは至らなくても、随時連絡、相談を取りながら取り組んでいる。				
48	運営に関する意見の反映	a	利用者が意見や要望、苦情を伝えられる機会をつくっている。(法人・事業所の相談窓口、運営推進会議、個別に訊く機会等)	○	2ヶ月に1度、介護相談員が来所、利用者の意見や要望、苦情を聞く機会がある。又、常日頃、管理者、職員は、利用者の意見や要望を聞くよう努めている。			○	利用者には日常会話の中で聞いたり、介護相談員の訪問時に要望などを聴いてもらうことができている。家族には面会時や運営推進会議などで、また家族会が発足したことから言いやすい機会がある。管理者は職員とミーティングやカンファレンスで意見を交わし、速やかに話し合い実行に移している。
		b	家族等が意見や要望、苦情を伝えられる機会をつくっている。(法人・事業所の相談窓口、運営推進会議、家族会、個別に訊く機会等)	○	運営推進会議や、家族会、面会時の際、コミュニケーションを通して話し合っている。	◎		○	
		c	契約当初だけではなく、利用者・家族等が苦情や相談ができる公的な窓口の情報提供を適宜行っている。	△	介護相談員が定期的に来所されている。苦情相談員についてホーム内に掲示している。				
		d	代表者は、自ら現場に足を運ぶなどして職員の意見や要望・提案等を直接聞く機会をつくっている。	○	代表者は、巡回など随時おこなっており、食事を共にしたり、いつでも意見や要望、相談ができる機会を作っている。又、必要に応じて個別に対応したりミーティング等全体で話し合っている。				
		e	管理者は、職員一人ひとりの意見や提案等を聴く機会を持ち、ともに利用者本位の支援をしていくための運営について検討している。	○	朝、夕の申し送りに参加し、常に現場の状況の把握に努めている。職員一人ひとりの意見や提案等が聞けるよう、それぞれに声かけをおこなっており、ミーティング、ユニット会で意見交換を行っている。			○	

愛媛県グループホームしおり

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
49	サービス評価の取り組み	a	代表者、管理者、職員は、サービス評価の意義や目的を理解し、年1回以上全員で自己評価に取り組んでいる。	◎	外部評価時には説明を行い、職員全員で一人ひとり自己評価に取り組んでいる。	/	/	/	運営推進会議で参加者に評価結果や目標達成計画を報告しているが、今後は途中経過や結果を詳細に報告することで取組み状況を理解してもらい、モニターとして関わってもらえるようになることに期待したい。
		b	評価を通して事業所の現状や課題を明らかにするとともに、意識統一や学習の機会として活かしている。	△	評価の内容や結果、課題等は職員で確認、共有している。	/	/	/	
		c	評価(自己・外部・家族・地域)の結果を踏まえて実現可能な目標達成計画を作成し、その達成に向けて事業所全体で取り組んでいる。	△	目標達成計画を作成し、職員全員に周知し職員間で話し合い確認している。	/	/	/	
		d	評価結果と目標達成計画を市町、地域包括支援センター、運営推進会議メンバー、家族等に報告し、今後の取り組みのモニターをしてもらっている。	○	家族、運営推進会議の参加者に書式を用いて報告し、計画書を確認してもらっている。	○	○	△	
		e	事業所内や運営推進会議等にて、目標達成計画に掲げた取り組みの成果を確認している。	○	計画書の成果の振り返りや確認が不十分である。	/	/	/	
50	災害への備え	a	様々な災害の発生を想定した具体的な対応マニュアルを作成し、周知している。(火災、地震、津波、風水害、原子力災害等)	△	マニュアルはあるが、周知徹底が不十分である。	/	/	/	年1回消防署立ち合いのもと避難訓練を行っているが、近隣住民の参加協力を得ることができていない。地元消防団の参加も現在は無い。7月の西日本豪雨では実際に怖い思いもしたことから、災害に備え近隣住民や消防団に継続して声かけを行って欲しい。また運営推進会議の参加者にも協力を得て、災害訓練にも取り組むことに期待したい。
		b	作成したマニュアルに基づき、利用者が、安全かつ確実に避難できるよう、さまざまな時間帯を想定した訓練を計画して行っている。	○	年3回日中、夜間想定や様々な状況を想定しての避難訓練を行っている。	/	/	/	
		d	消火設備や避難経路、保管している非常用食料・備品・物品類の点検等を定期的に行っている。	○	防災・リスク委員会を設置し定期的に点検している。	/	/	/	
		e	地域住民や消防署、近隣の他事業所等と日頃から連携を図り、合同の訓練や話し合う機会をつくるなど協力・支援体制を確保している。	○	年1回は、消防署立ち合いのもと、訓練を実施している。地域の消防団や消防署とは連携がとれているが、近隣住民や他事業所との連携や支援体制は図れていない。	○	○	△	
		f	災害時を想定した地域のネットワークづくりに参加したり、共同訓練を行うなど、地域の災害対策に取り組んでいる。(県・市町、自治会、消防、警察、医療機関、福祉施設、他事業所等)	△	年1度地域の共同訓練に参加している。又、災害時の情報伝達訓練や原子力災害の福祉施設受け入れ等を行っている。	/	/	/	
51	地域のケア拠点としての機能	a	事業所は、日々積み上げている認知症ケアの実践力を活かして地域に向けて情報発信したり、啓発活動等に取り組んでいる。(広報活動、介護教室等の開催、認知症サポーター養成研修や地域の研修・集まり等での講師や実践報告等)	△	しおり便りの発行、行事等を通して情報発信をしたり足を運んでもらう機会を作っているが、積極的な啓発活動には及んでいない。	/	/	/	随時、見学や問い合わせ、相談は受け付けており、年4回、認知症のある方、その家族や地域の方、専門職が出来る場所として「笑みちゃんカフェ」を開催しており、充実した相談対応ができています。認知症の勉強会や地域イベントへの参加、他事業所との交流を積極的に行い地域との関係も構築されているなど、地域に根ざした事業所となっている。
		b	地域の高齢者や認知症の人、その家族等への相談支援を行っている。	○	毎月、見学、相談日を設けているが、施設見学はいつでも受け付けており、電話での問い合わせや相談にも対応できるよう努めている。	/	○	○	
		c	地域の人たちが集う場所として事業所を解放、活用している。(サロン・カフェ・イベント等交流の場、趣味活動の場、地域の集まりの場等)	◎	地域サロン、フラダンス、演奏会、笑みちゃんカフェ、夏祭り、感謝祭のイベントの際には、事業所を開放し会場として提供し一緒に参加している。又、保育園児の散歩コースにもなっている。	/	/	/	
		d	介護人材やボランティアの養成など地域の人材育成や研修事業等の実習の受け入れに協力している。	○	要望や必要性がある場合は、積極的に受け入れを行っている。	/	/	/	
		e	市町や地域包括支援センター、他の事業所、医療・福祉・教育等各関係機関との連携を密にし、地域活動を協働しながら行っている。(地域イベント、地域啓発、ボランティア活動等)	○	町内清掃の参加や地域イベントには、積極的に参加している。他施設との交流を図ったり、協力医や専門機関との連携等、関係構築に努めている。	/	/	○	